

田村市都路地域 住民意向調査 報告書

平成28年3月

復興庁
福島県
田村市

田村市都路地域 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の住まいの場所	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	21
3-1-4 震災発生当時の住まいの行政区	25
3-1-5 震災発生当時の住居形態	26
3-1-6 震災発生当時の住居に居住している場合に 今後の生活において求める支援	27
3-1-7 震災発生当時の住居以外に居住している理由	29
3-1-8 震災発生当時の住居以外の住まいがある自治体	31
3-1-9 震災発生当時の住居以外の住まい（田村市内）がある場所	33
3-1-10 震災発生当時の住居以外に居住している場合の住居形態	34
3-2 将来の意向	36
3-2-1 田村市への居住意向	36
3-2-2 田村市への帰還時期	40
3-2-3 田村市へ帰還する場合の住居形態	42
3-2-4 田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	44
3-2-5 田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報	46

3-2-6	田村市への帰還の判断がつかない場合に 今後の生活に必要な支援	49
3-2-7	田村市へ帰還しない場合の今後の意向（参考値）	51
3-2-8	田村市の自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの	54
3-3	意見・要望	56
IV	参考資料	67
4-1	使用調査票	69

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、田村市都路地域の現在の居住状況や今後の居住希望、今後の生活において求める支援等の基礎的情報収集等を目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	田村市都路地域
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 876 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成27年10月2日（金）～平成27年10月16日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、田村市
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 528 世帯（有効回収率 60.3%）

1-5 報告書の見方

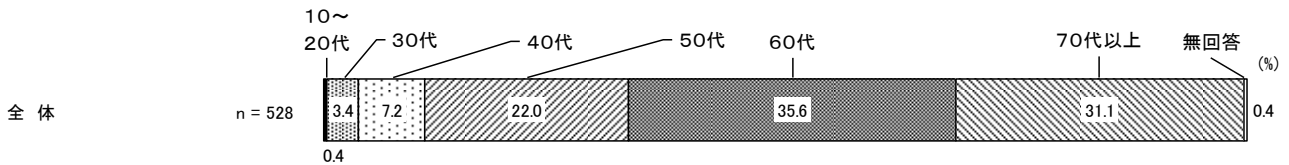
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、原則としては文章中の分析では言及していない。
- ・問25～問28の「田村市以外の場所に住みたい」と回答した方が回答する設問については、調査数（ n 値）が「13」と回答構成比の信頼性が低いため、参考値として掲載する。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

(1) 年齢

<図表2-1-1>



(2) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-2>

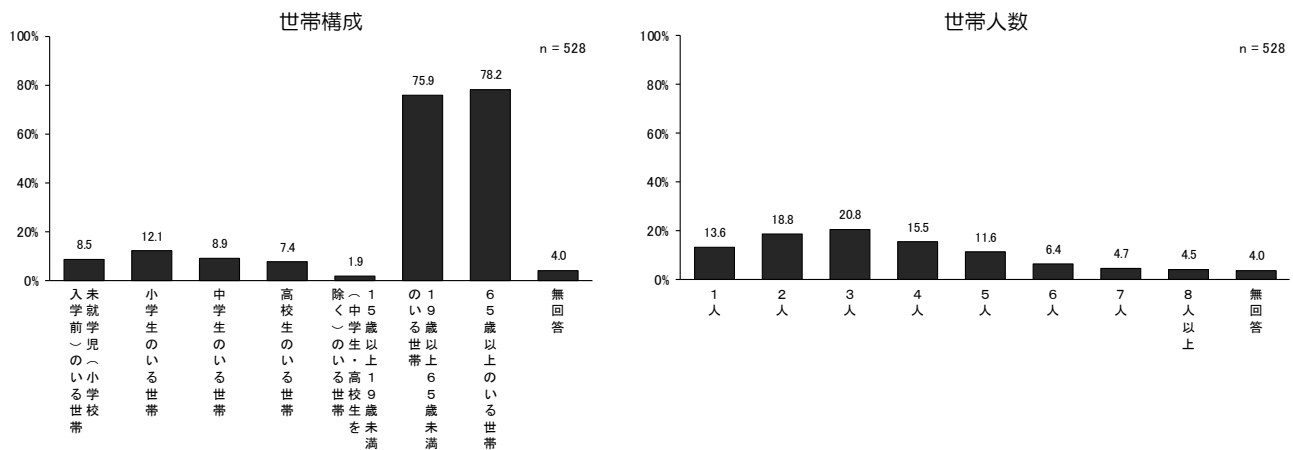


※都路町第8行政区(小滝沢地区)及び第9行政区:旧避難指示解除準備区域(平成26年4月1日に避難指示解除)

(以降、震災発生当時の居住地域別の分析において、旧避難指示解除準備区域とその他の行政区の2つの居住地域別に整理)

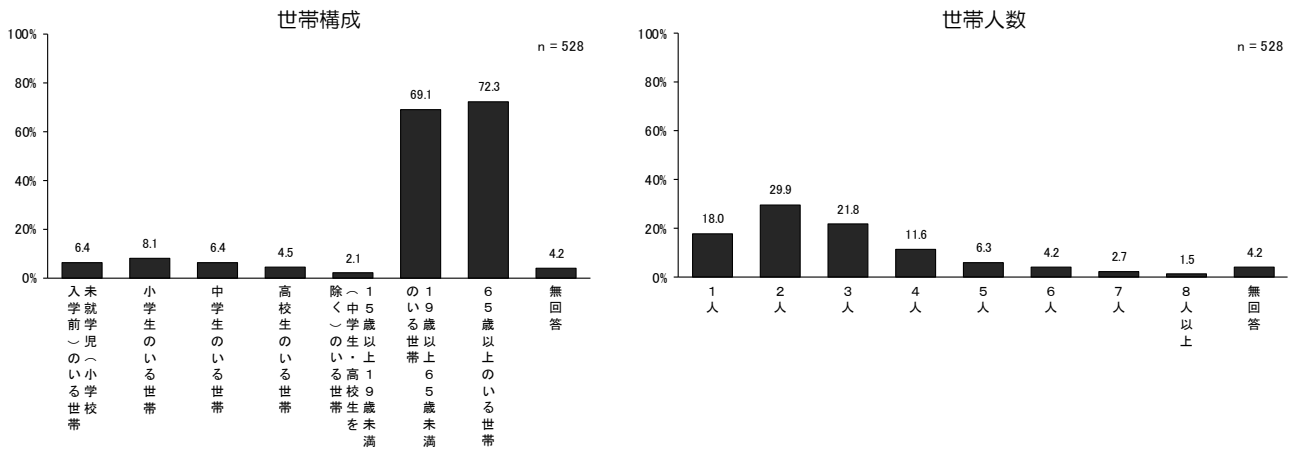
(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-3>



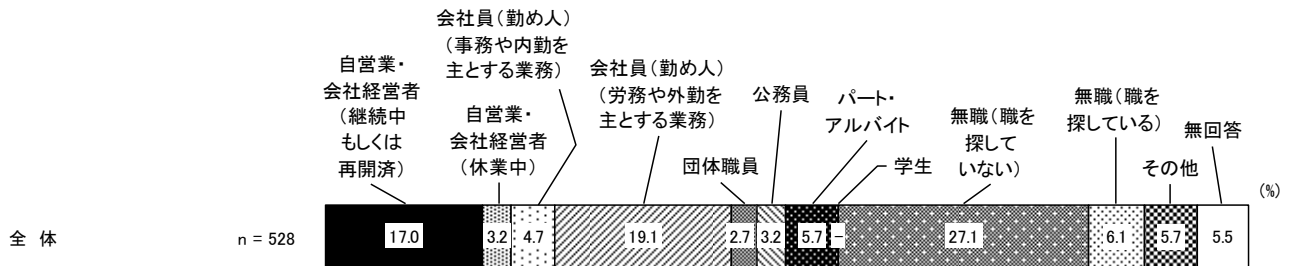
(4) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



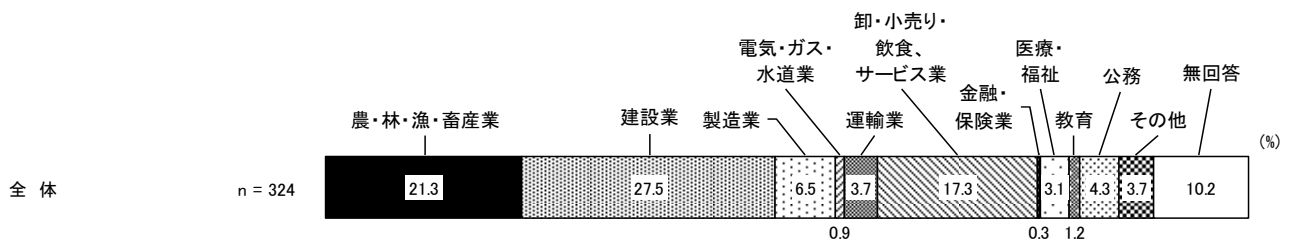
(5) 現在の職業 (就業形態)

<図表2-1-5>



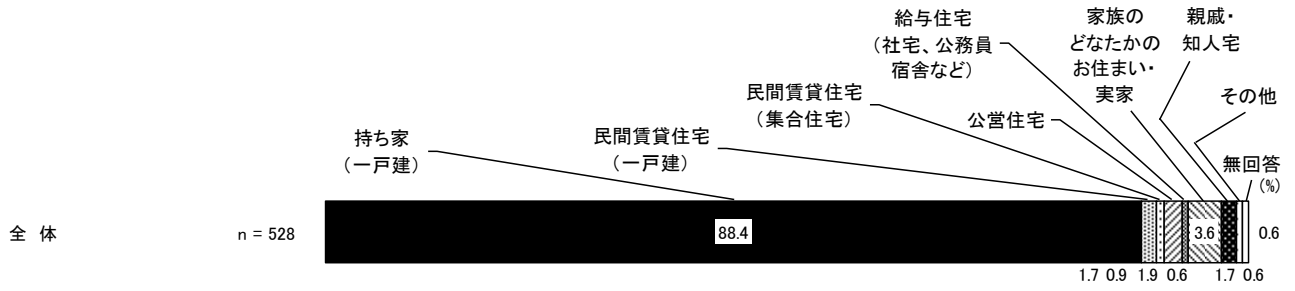
(6) 現在の職業 (業種)

<図表2-1-6>



(7) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-7>



III 調査結果

3-1 現在の状況

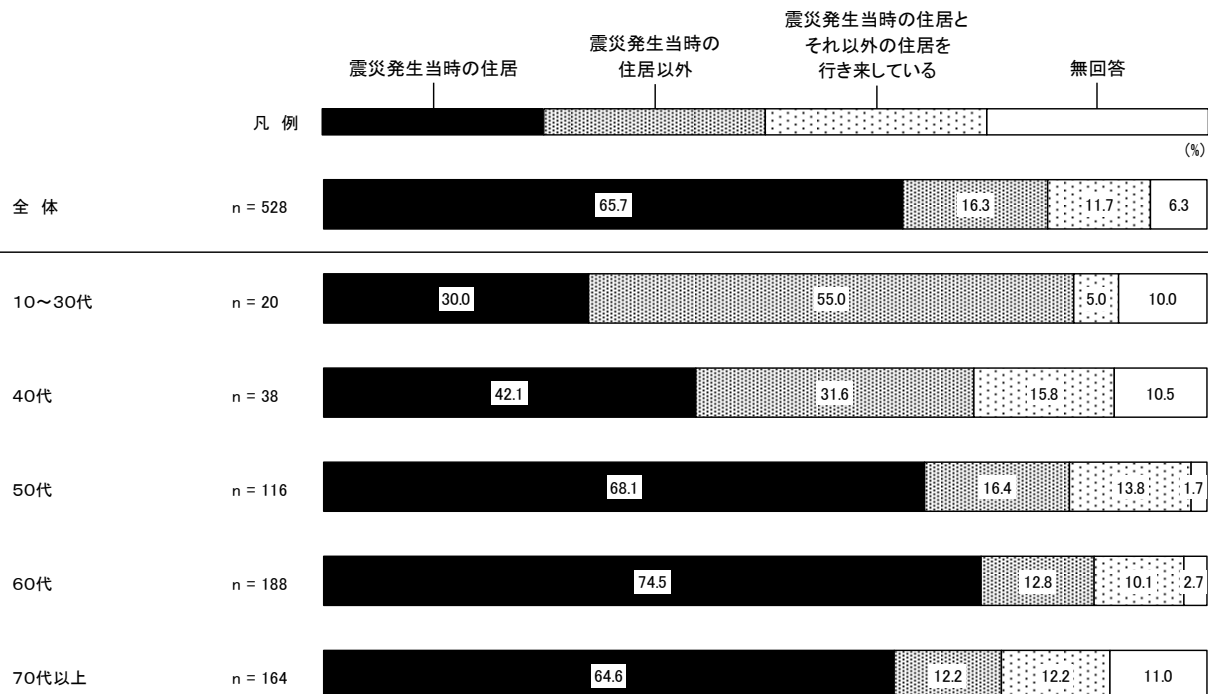
3-1-1 現在の住まいの場所

問7 あなたが現在お住まいの場所はどちらですか。(〇は1つ)

現在の住まいの場所については、「震災発生当時の住居」が65.7%、「震災発生当時の住居以外」が16.3%、「震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」が11.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「震災発生当時の住居」は60代で74.5%と高い。一方、「震災発生当時の住居以外」は10~30代で55.0%、40代で31.6%と比較的若い世代で高くなっている。

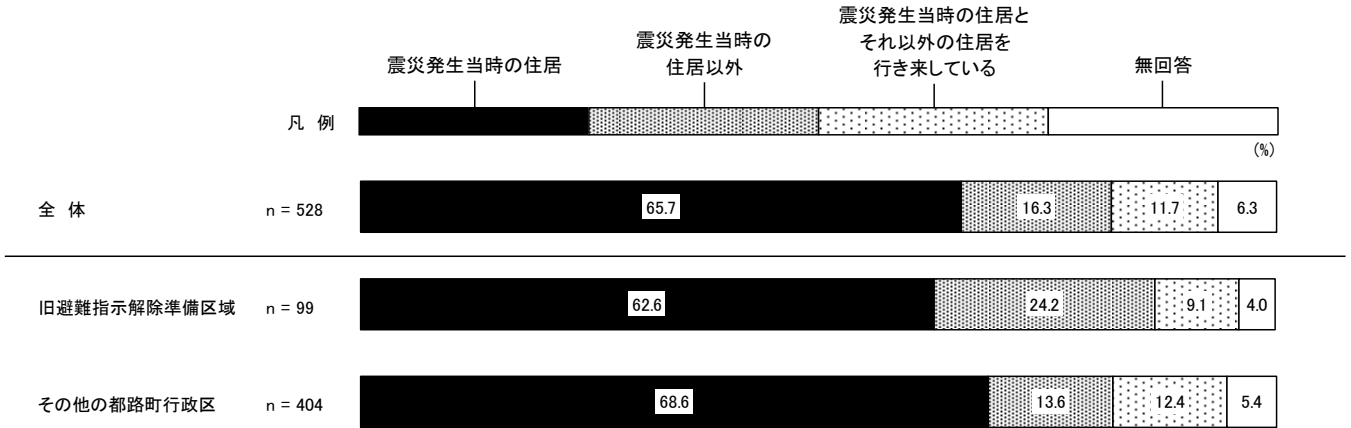
<図表3-1-1-1 現在の住まいの場所（年齢別）>



Ⅲ 調査結果

震災発生当時の居住地域別にみると、「震災発生当時の住居以外」は旧避難指示解除準備区域で 24.2%と比較的高くなっている。

<図表3-1-1-2 現在の住まいの場所（震災発生当時の居住地域別）>



3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

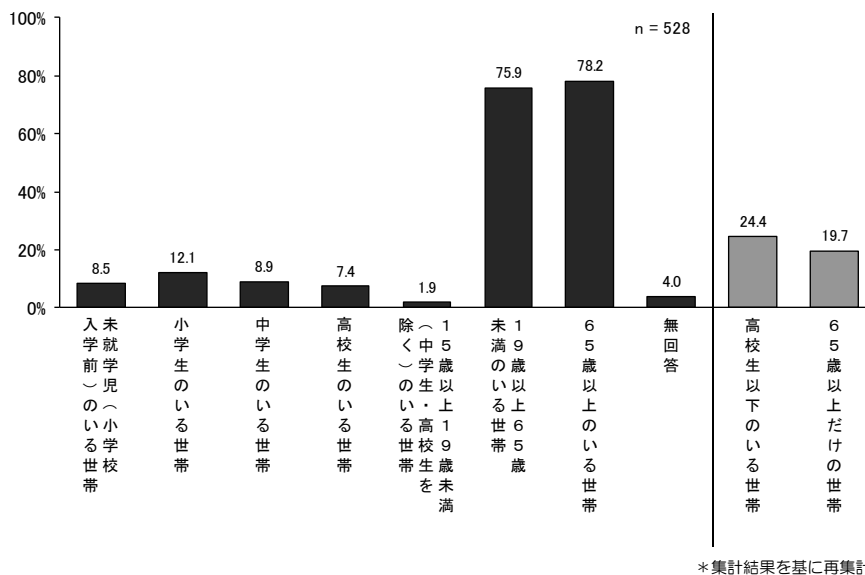
問5 「震災発生時に」、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 震災発生当時の世帯構成

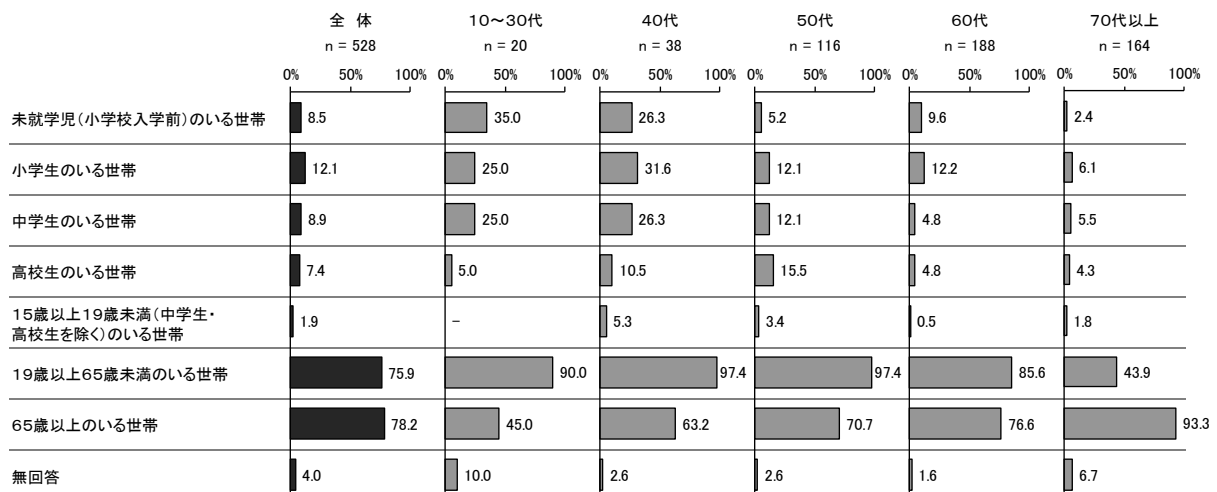
震災発生当時の世帯構成は、「19歳以上65歳未満のいる世帯」が75.9%、「65歳以上のいる世帯」が78.2%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(8.5%)、「小学生のいる世帯」(12.1%)、「中学生のいる世帯」(8.9%)、「高校生のいる世帯」(7.4%)はいずれも10%前後となっており、「15歳以上19歳未満(中学生・高校生を除く)のいる世帯」は1.9%となっている。

また、再集計を行った「高校生以下のいる世帯」は24.4%、「65歳以上だけの世帯」は19.7%となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>

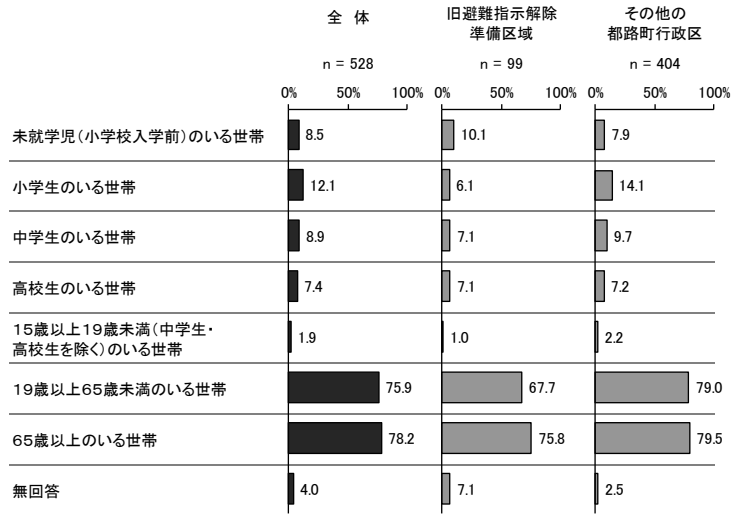


<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>



震災発生当時の居住地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯構成（震災発生当時の居住地域別）>



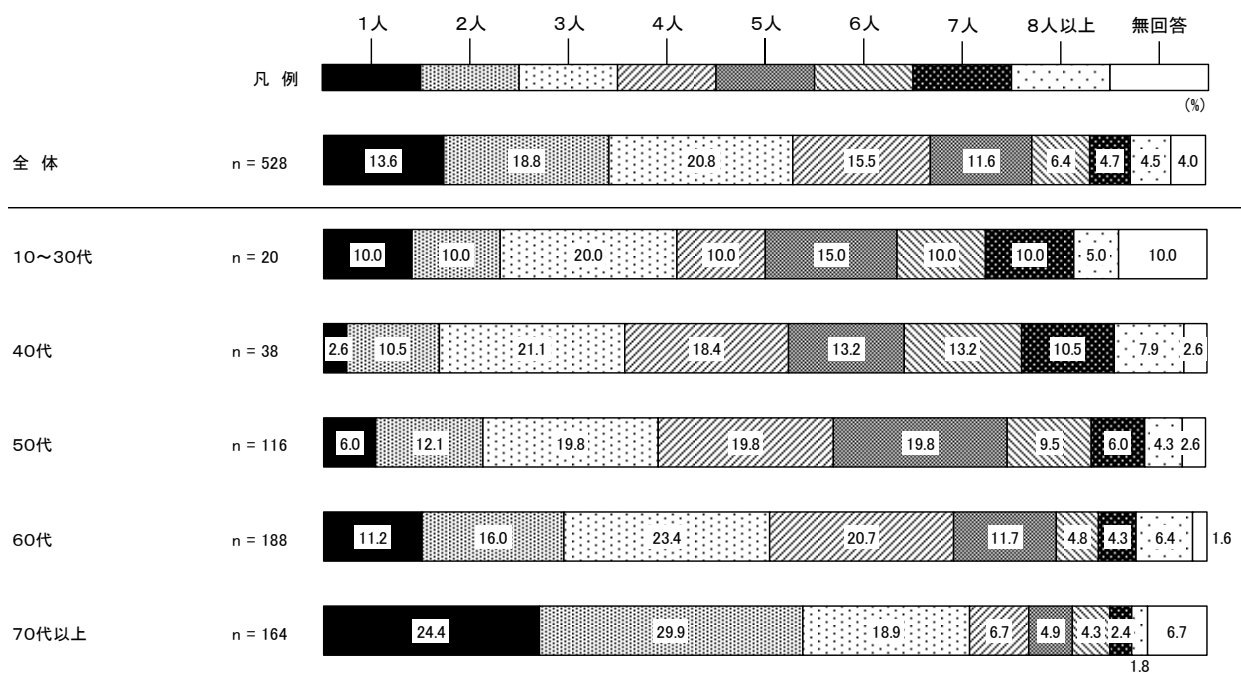
② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「3人」が20.8%、「2人」が18.8%、「4人」が15.5%となっている。

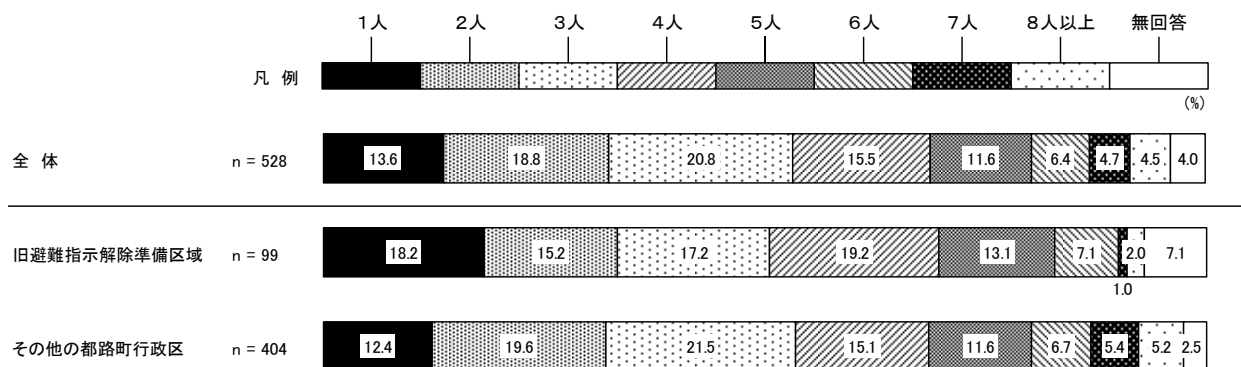
回答者の年齢別にみると、「1人」は70代以上（24.4%）で、「2人」は70代以上（29.9%）で、「3人」は60代（23.4%）で、「4人」は60代（20.7%）で、「5人」は50代（19.8%）で、「6人」は40代（13.2%）で、「7人」は10代～30代（10.0%）、40代（10.5%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

震災発生当時の居住地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-2-4 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



<図表3-1-2-5 震災発生当時の世帯人数（震災発生当時の居住地域別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

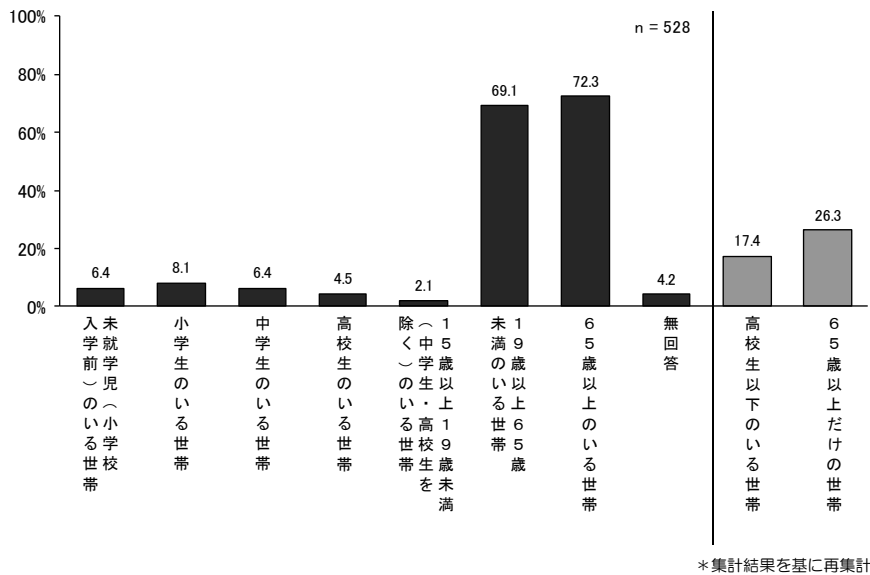
問6 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

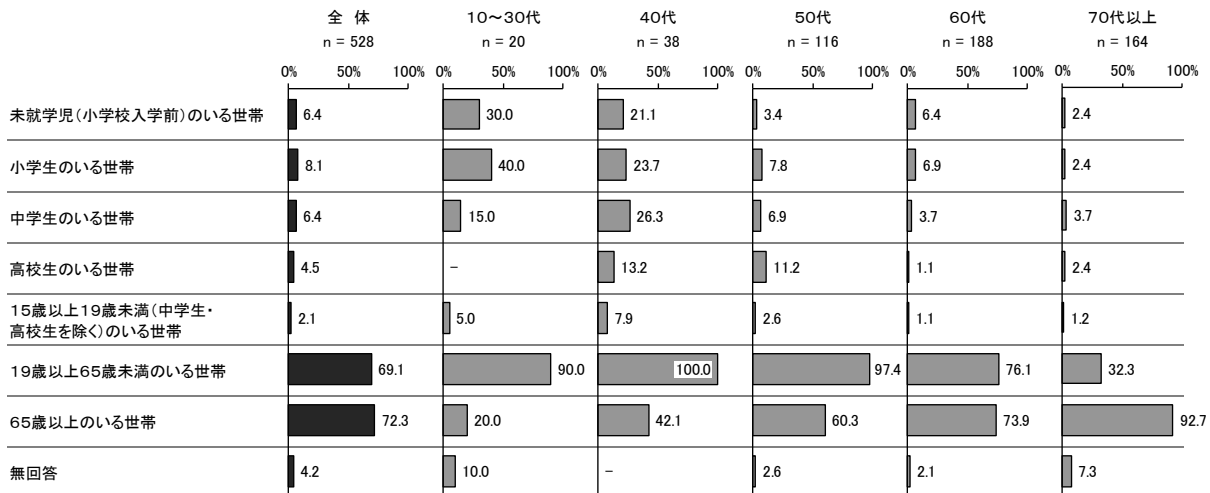
現在の世帯構成は、「19歳以上65歳未満のいる世帯」が69.1%、「65歳以上のいる世帯」が72.3%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(6.4%)、「小学生のいる世帯」(8.1%)、「中学生のいる世帯」(6.4%)、「高校生のいる世帯」(4.5%)、「15歳以上19歳未満(中学生・高校生を除く)のいる世帯」(2.1%)はいずれも10%未満となっている。

また、再集計を行った「高校生以下のいる世帯」は17.4%、「65歳以上だけの世帯」は26.3%となっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯構成>

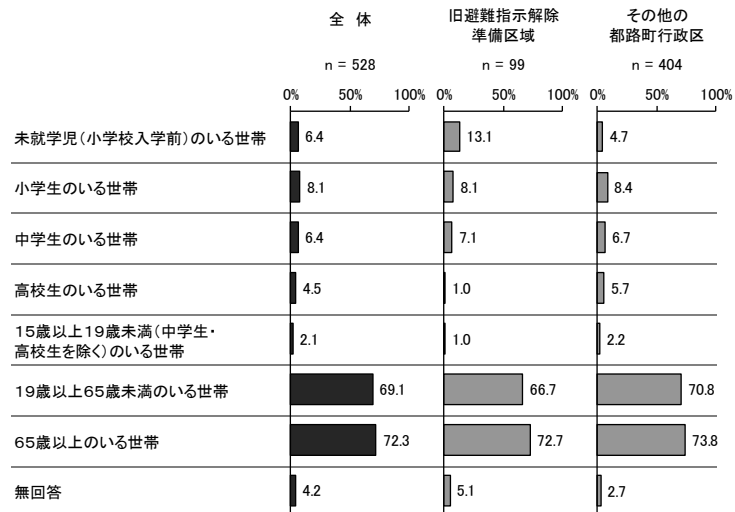


<図表3-1-2-7 現在の世帯構成(年齢別)>



震災発生当時の居住地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-2-8 現在の世帯構成（震災発生当時の居住地域別）>



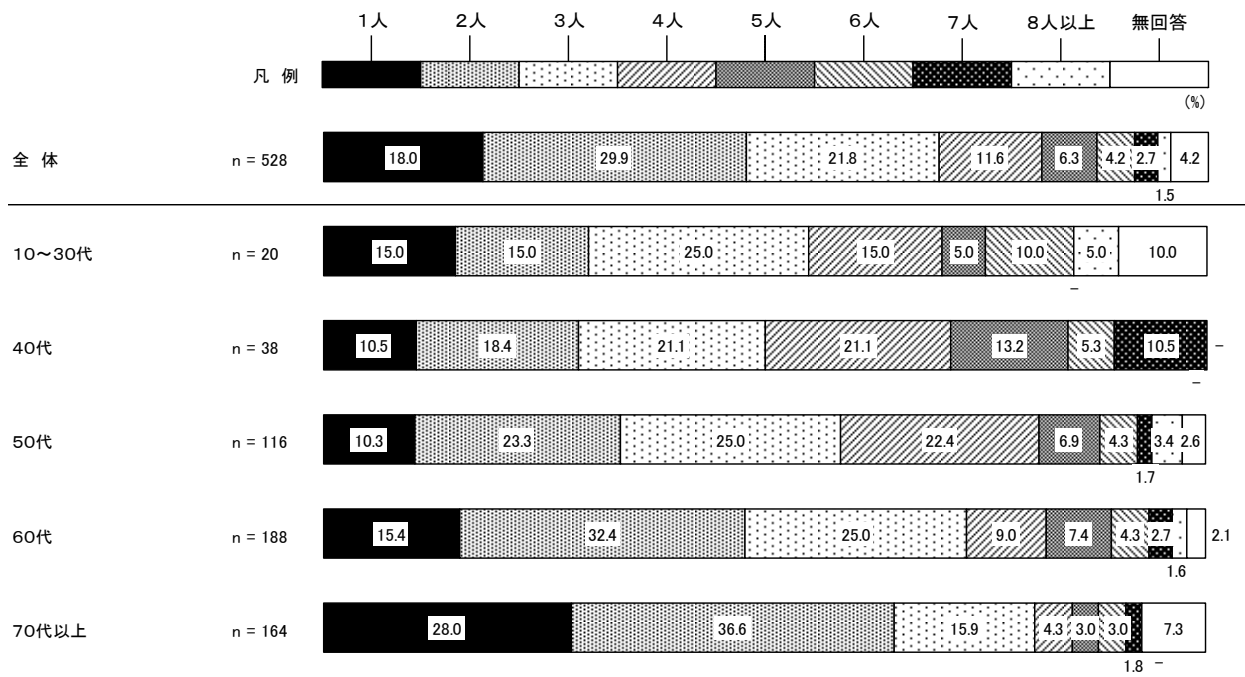
② 現在の世帯人数

現在の世帯人数については、「2人」が29.9%、「3人」が21.8%、「1人」が18.0%となっている。

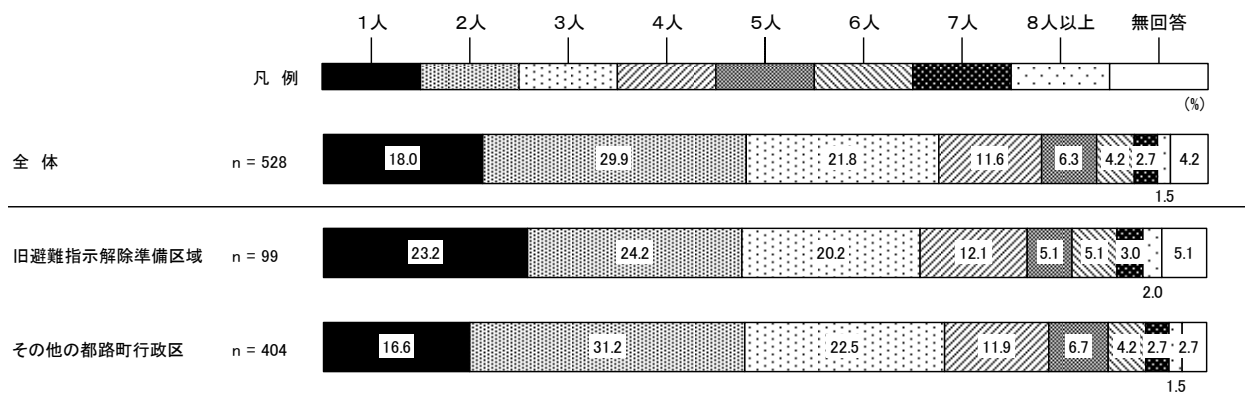
回答者の年齢別にみると、「1人」は70代以上（28.0%）で、「2人」は70代以上（36.6%）で、「4人」は40代（21.1%）、50代（22.4%）で、「5人」は40代（13.2%）で、他の年齢に比べて割合が高くなっている。

震災発生当時の居住地域別にみると「1人」は旧避難指示解除準備区域（23.2%）で比較的高くなっている。

<図表3-1-2-9 現在の世帯人数（年齢別）>



<図表3-1-2-10 現在の世帯人数（震災発生当時の居住地域別）>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

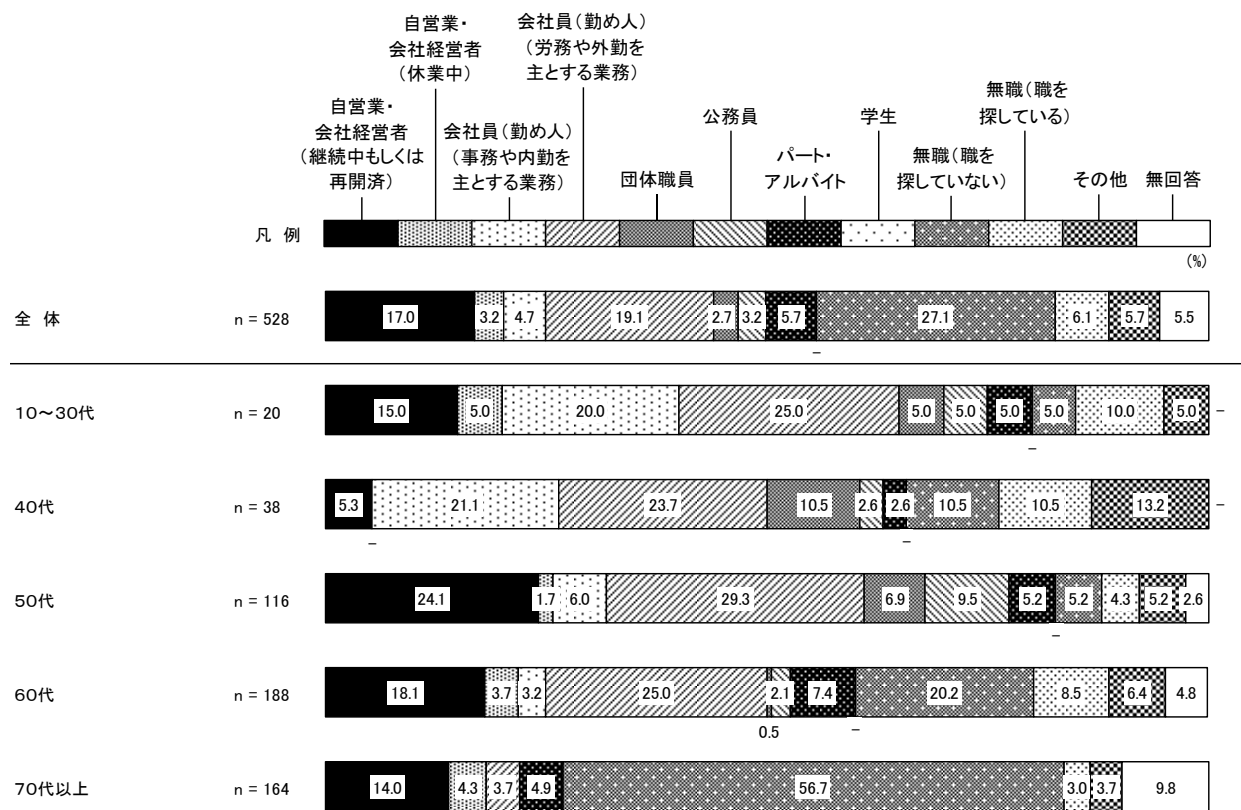
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が19.1%、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が17.0%と高い。

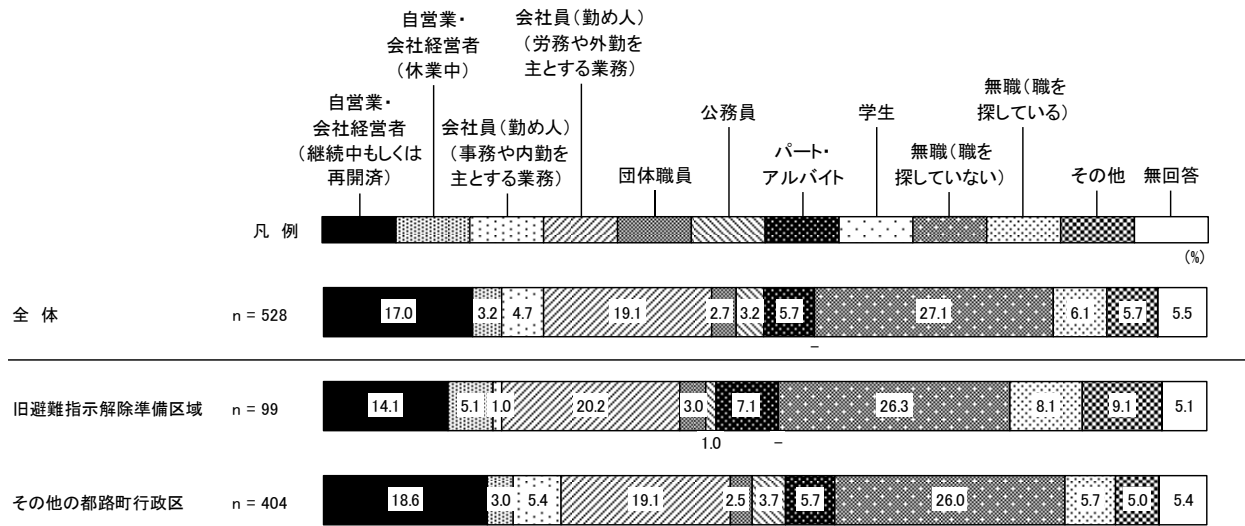
回答者の年齢別にみると、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は10～30代（25.0%）、50代（29.3%）、60代（25.0%）で、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」は50代（24.1%）で、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は10～30代（20.0%）、40代（21.1%）で、「団体職員」は40代（10.5%）で高くなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



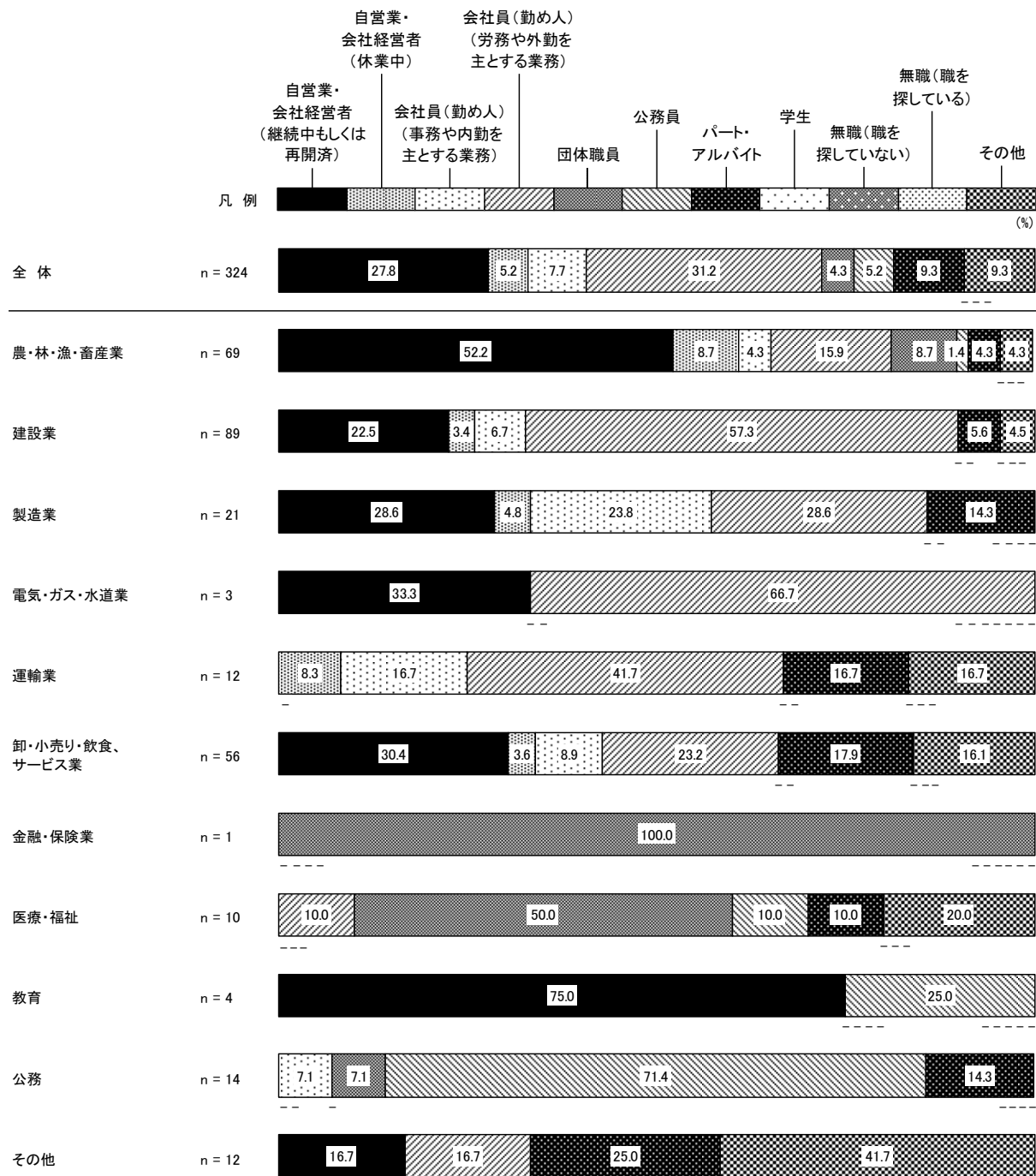
震災発生当時の居住地別みると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-3-2 現在の職業（震災発生当時の居住地別）>



業種別にみると、農・林・漁・畜産業では「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」（52.2%）、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（57.3%）、卸・小売り・飲食、サービス業では「パート・アルバイト」（17.9%）が他の業種と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

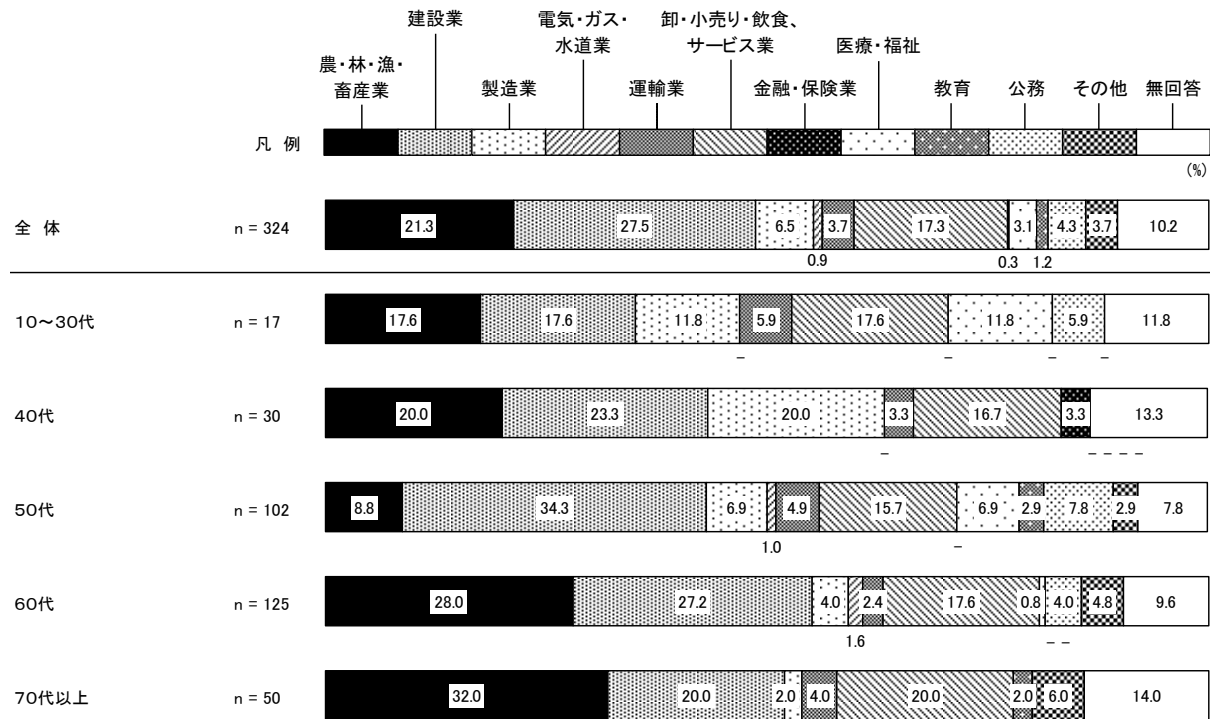
(2) 業種 (〇は1つ)

現在の業種については、「建設業」が27.5%、「農・林・漁・畜産業」が21.3%、「卸・小売り・飲食、サービス業」が17.3%となっている。

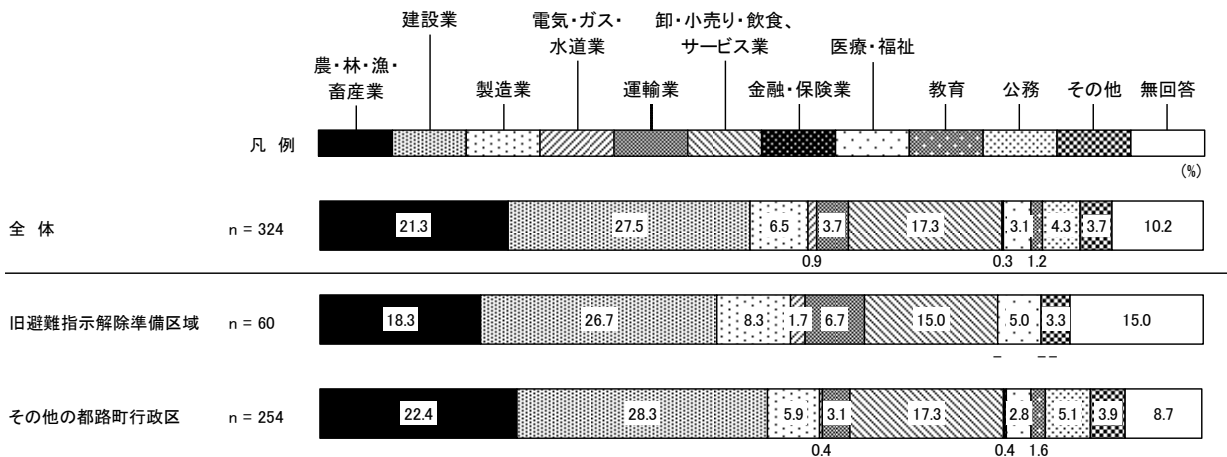
回答者の年齢別にみると、「建設業」は50代(34.3%)で、「農・林・漁・畜産業」は60代(28.0%)、70代以上(32.0%)で、他の年齢と比べ割合が高くなっている。

震災発生当時の居住地別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-3-4 業種(年齢別)>



<図表3-1-3-5 業種(震災発生当時の居住地別)>



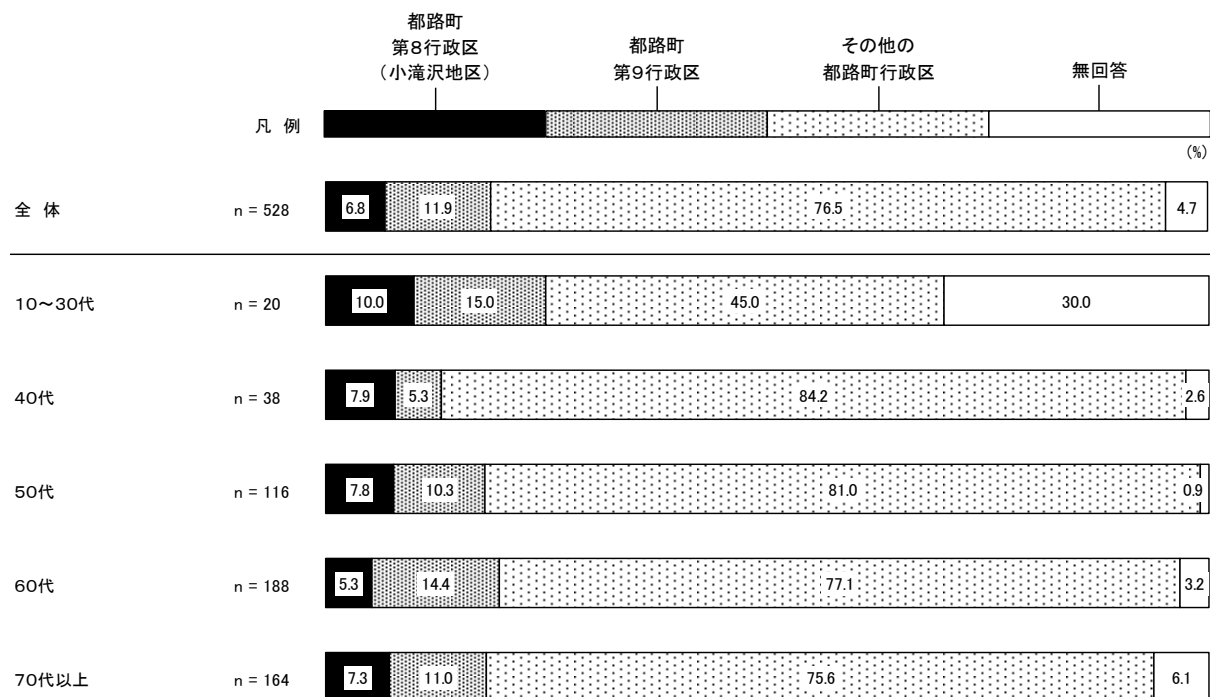
3-1-4 震災発生当時の住まいの行政区

問3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(〇は1つ)

震災発生当時の住まいの行政区については、「その他の都路町行政区」が76.5%、「都路町第9行政区」が11.9%、「都路町第8行政区(小滝沢地区)」が6.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住まいの行政区(年齢別)>

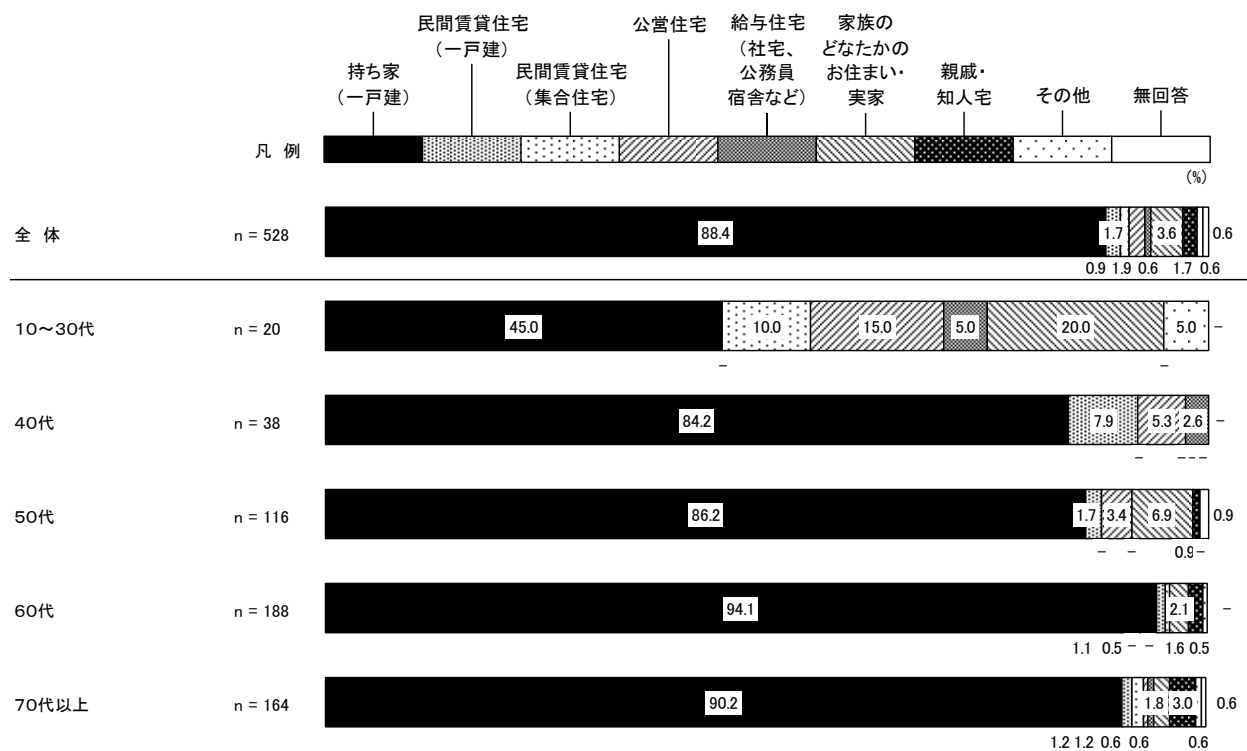


3-1-5 震災発生当時の住居形態

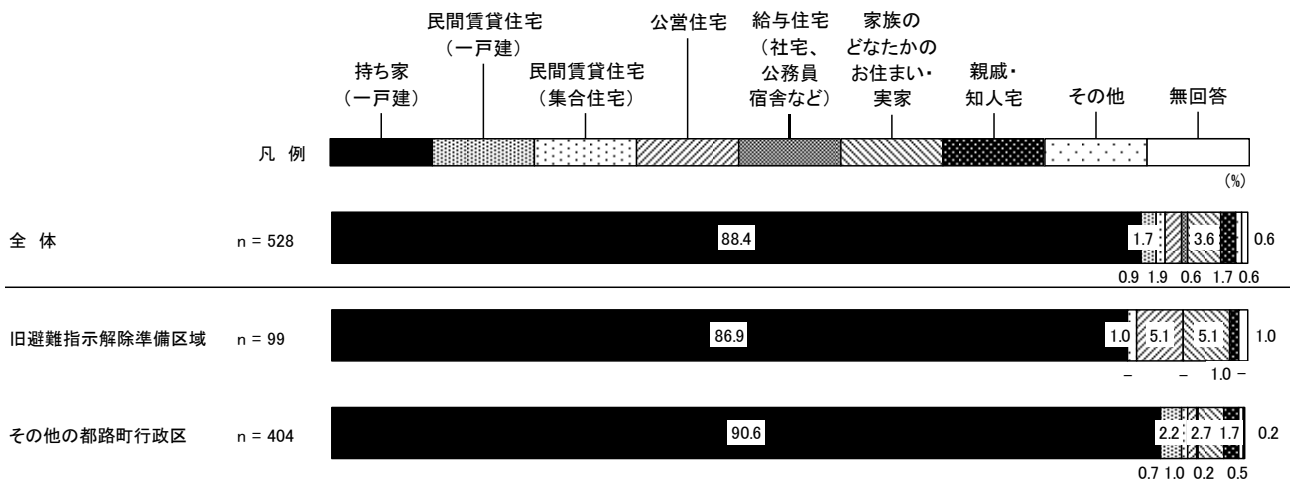
問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が88.4%と大半を占めている。
 回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は40代以上の各年齢で8割以上を占める。一方10～30代では「家族のどなたかのお住まい・実家」が20.0%、「公営住宅」が15.0%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（10.0%）と、他の年齢と比べて割合が高くなっている。
 震災発生当時の居住地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

＜図表3-1-5-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）＞



＜図表3-1-5-2 震災発生当時の住居形態（震災発生当時の居住地域別）＞



3-1-6 震災発生当時の住居に居住している場合に今後の生活において求める支援

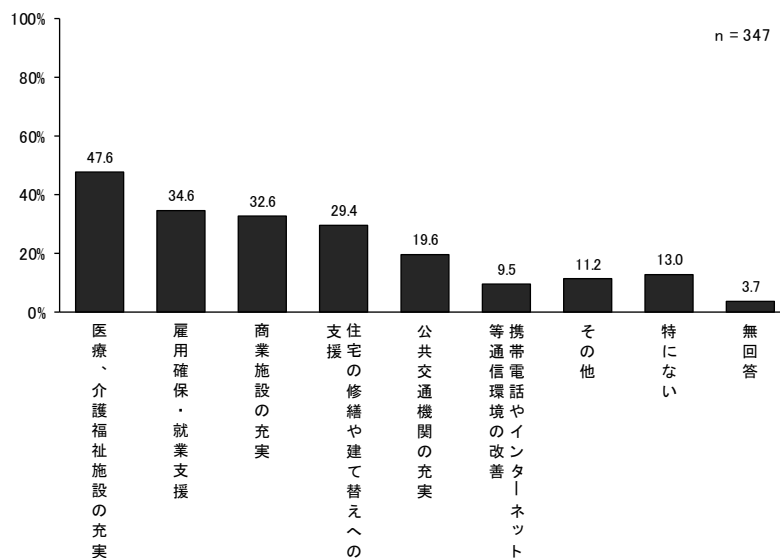
【問7で「1. 震災発生当時の住居」と回答した方】

問8 都路地域での今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

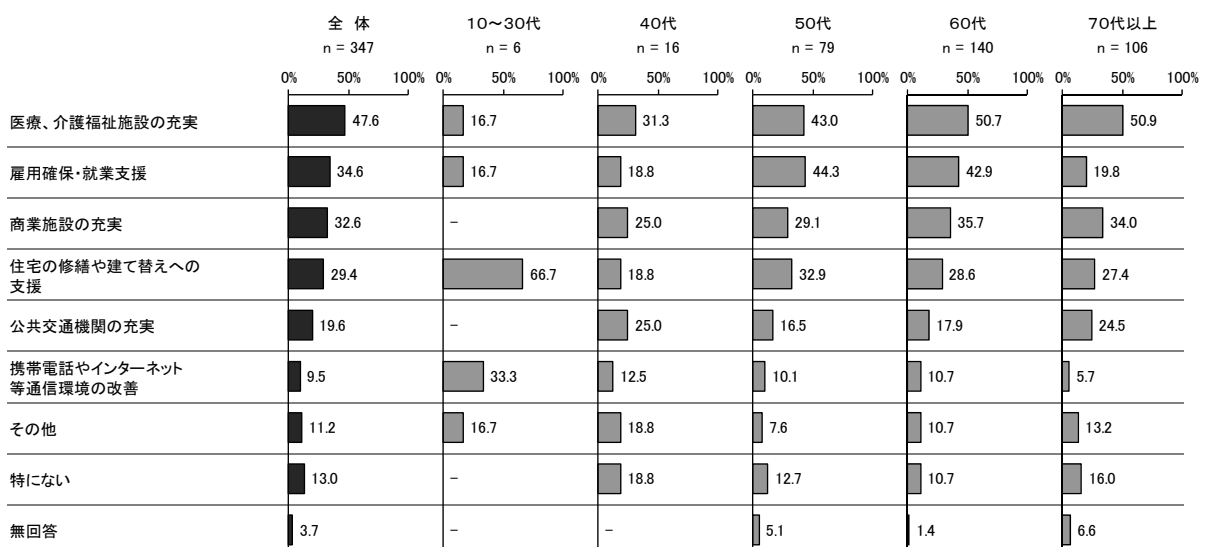
震災発生当時の住居に居住している場合に今後の生活において求める支援については、「医療、介護福祉施設の充実」が47.6%、「雇用確保・就業支援」が34.6%、「商業施設の充実」32.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「雇用確保・就業支援」は50代(44.3%)、60代(42.9%)で、「住宅の修繕や建て替えへの支援」は10~30代(66.7%)で、「公共交通機関の充実」は40代(25.0%)、70代以上(24.5%)で、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」は10~30代(33.3%)で、他の年齢と比べ割合が高くなっている。

<図表3-1-6-1 震災発生当時の住居に居住している場合に今後の生活において求める支援>



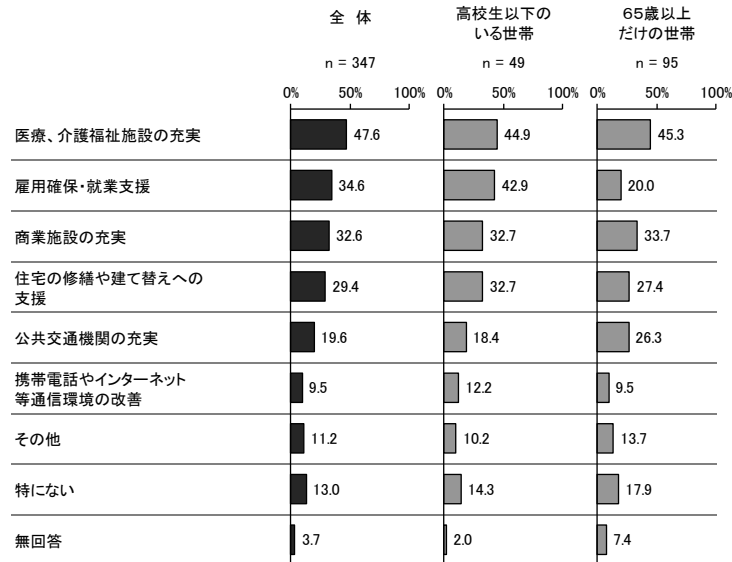
<図表3-1-6-2 震災発生当時の住居に居住している場合に今後の生活において求める支援(年齢別)>



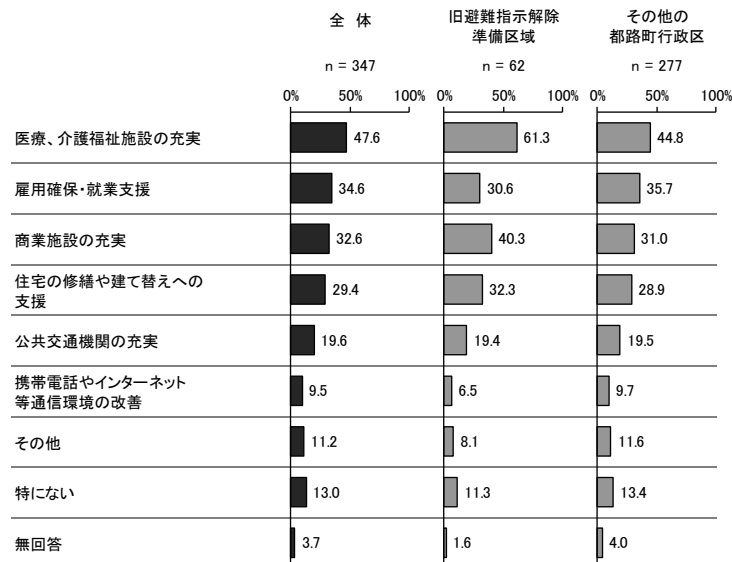
世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「公共交通機関の充実」(26.3%)が高くなっている。一方、高校生以下のいる世帯では「雇用確保・就業支援」(42.9%)が高い。

震災発生当時の居住地別にみると、旧避難指示解除準備区域では「医療、介護福祉施設の充実」(61.3%)が6割以上を占め、また、「商業施設の充実」(40.3%)が高くなっている。

<図表3-1-6-3 震災発生当時の住居に居住している場合に今後の生活において求める支援(世帯構成別)>



<図表3-1-6-4 震災発生当時の住居に居住している場合に今後の生活において求める支援(震災発生当時の居住地別)>



3-1-7 震災発生当時の住居以外に居住している理由

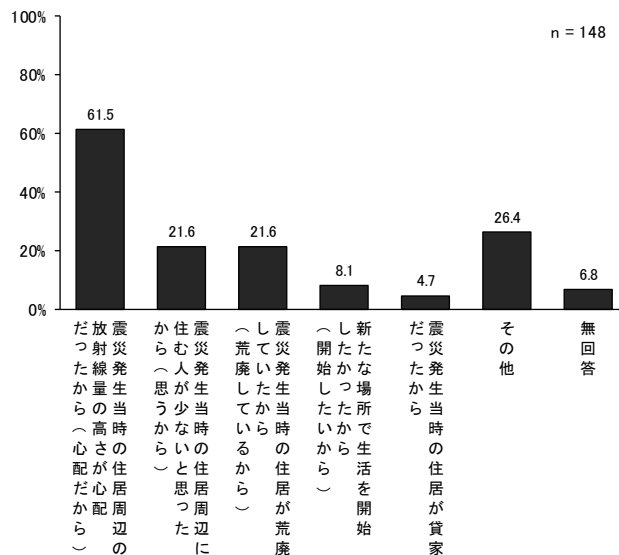
【問7で「2. 震災発生当時の住居以外」または「3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方】

問11 震災発生当時の住居以外にお住まいの理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

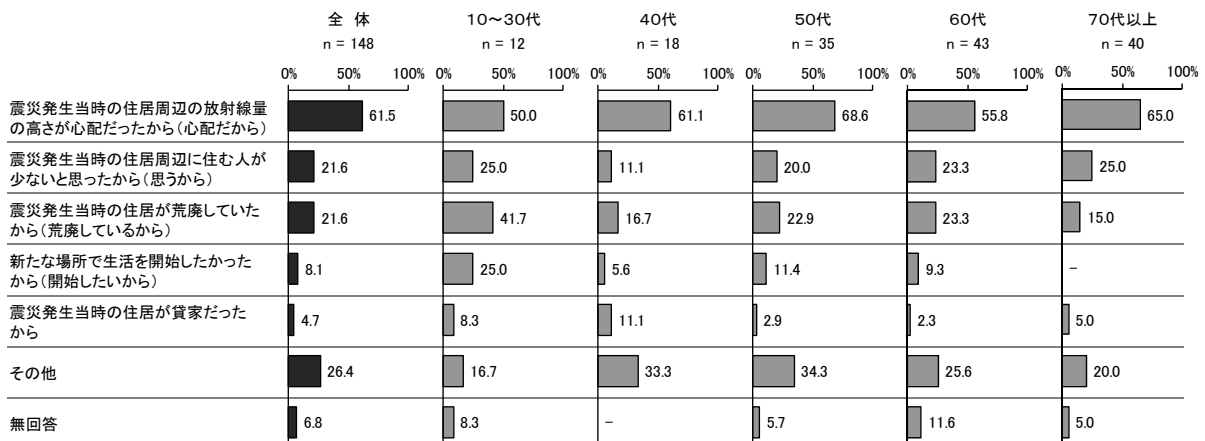
震災発生当時の住居以外に居住している理由については、「震災発生当時の住居周辺の放射線量の高さが心配だったから(心配だから)」が61.5%、「震災発生当時の住居周辺に住む人が少ないと思ったから(思うから)」、「震災発生当時の住居が荒廃していたから(荒廃しているから)」がいずれも21.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「震災発生当時の住居周辺の放射線量の高さが心配だったから(心配だから)」は50代(68.6%)で、「震災発生当時の住居が荒廃していたから(荒廃しているから)」は10~30代(41.7%)で、「新たな場所で生活を始めたかったから(開始したいから)」は10~30代(25.0%)で他の年齢と比べ割合が高くなっている。

<図表3-1-7-1 震災発生当時の住居以外に居住している理由>



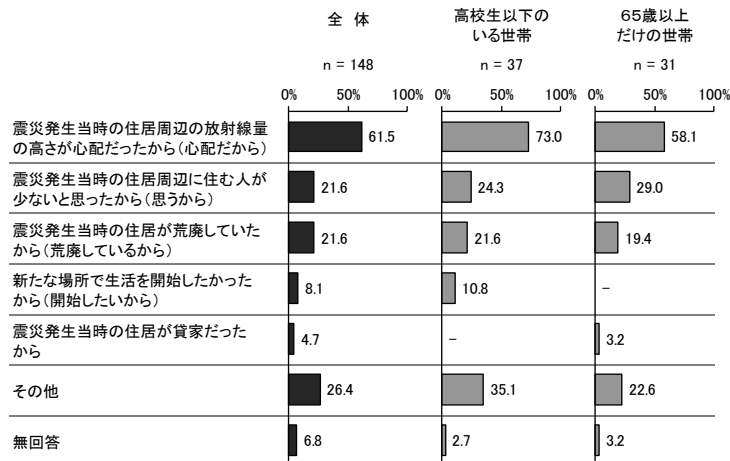
<図表3-1-7-2 震災発生当時の住居以外に居住している理由(年齢別)>



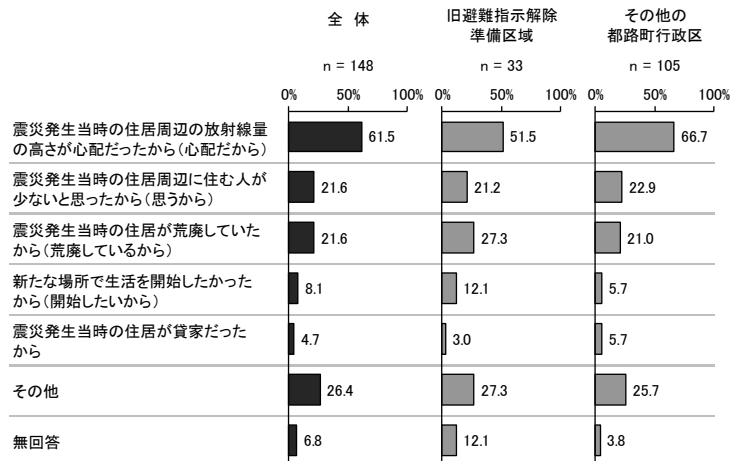
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「震災発生当時の住居周辺の放射線量の高さが心配だったから（心配だから）」（73.0%）が7割以上と高い。一方、65歳以上の世帯では「震災発生当時の住居周辺に住む人が少ないと思ったから（思うから）」が29.0%と高くなっている。

震災発生当時の居住地別に見ると、「震災発生当時の住居周辺の放射線量の高さが心配だったから（心配だから）」はその他の都路町行政区（66.7%）で高い。一方、「震災発生当時の住居が荒廃していたから（荒廃しているから）」は旧避難指示解除準備区域（27.3%）で高くなっている。

<図表3-1-7-3 震災発生当時の住居以外に居住している理由（世帯構成別）>



<図表3-1-7-4 震災発生当時の住居以外に居住している理由（震災発生当時の居住地別）>



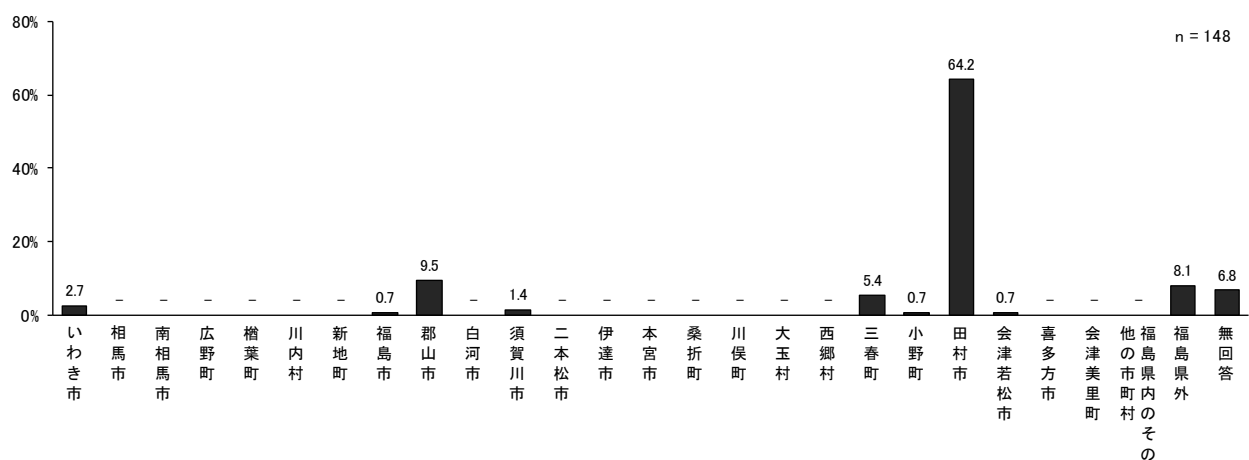
3-1-8 震災発生当時の住居以外の住まいがある自治体

【問7で「2. 震災発生当時の住居以外」または「3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方】

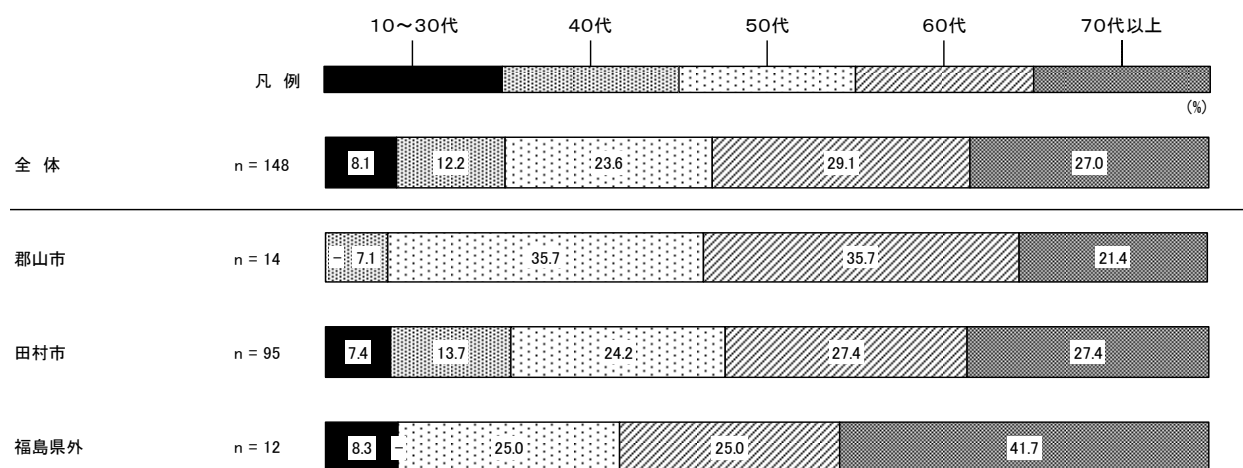
問12 あなたが現在お住まいの、震災発生当時の住居以外のお住まいがある自治体を教えてください。(〇は1つ)

震災発生当時の住居以外の住まいがある自治体については、「田村市」が64.2%、「郡山市」が9.5%、「福島県外」が8.1%となっている。

<図表3-1-8-1 震災発生当時の住居以外の住まいがある自治体>



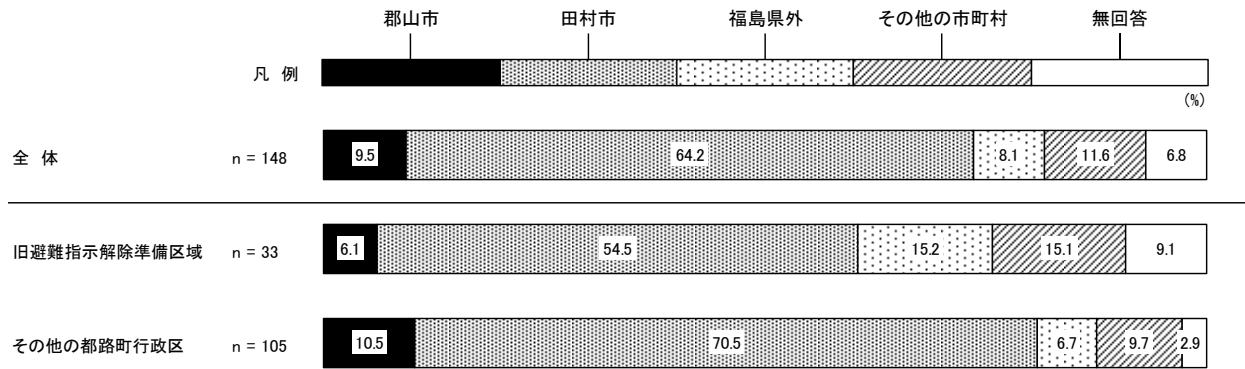
<図表3-1-8-2 震災発生当時の住居以外の住まいがある主な自治体(年齢別)>



Ⅲ 調査結果

震災発生当時の居住地域別にみると、その他の都路町行政区では「田村市」(70.5%)が7割以上となっている。一方、旧避難指示解除準備区域では、「福島県外」(15.2%)が比較的高い。

<図表3-1-8-3 震災発生当時の住居以外の住まいがある主な自治体(震災発生当時の居住地域別)>



3-1-9 震災発生当時の住居以外の住まい（田村市内）がある場所

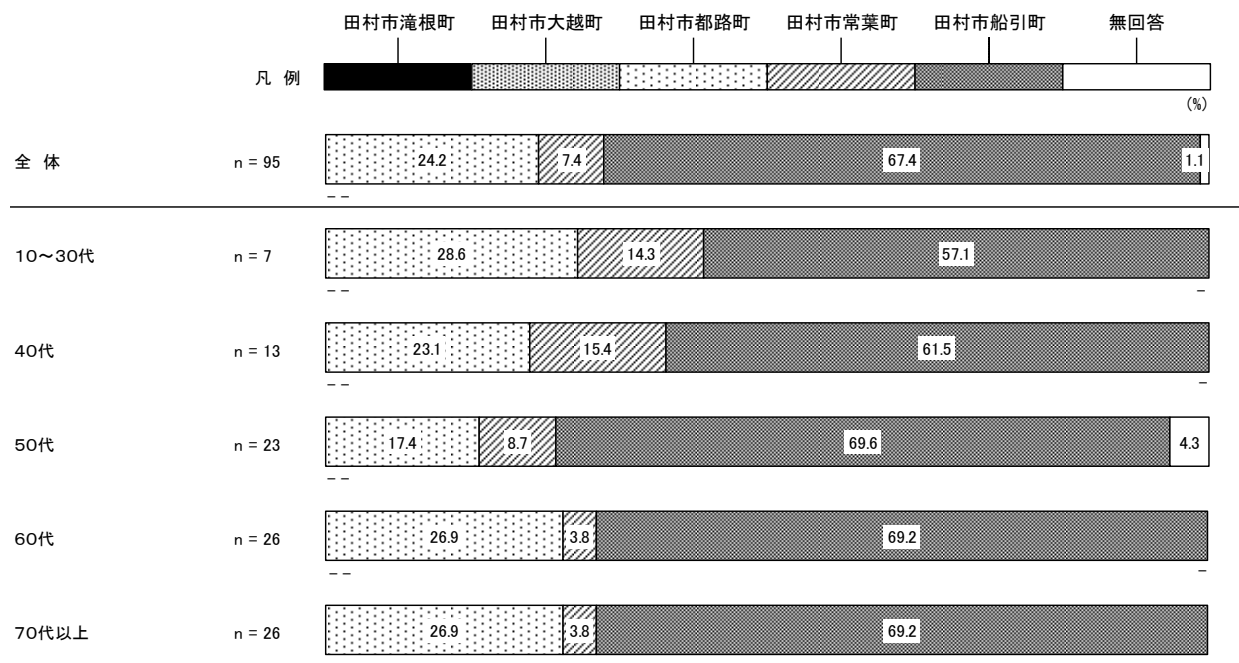
【問 12 で「21. 田村市」を選んだ方】

問 13 現在お住まいの、震災発生当時の住居以外のお住まいがあるところを、以下から教えてください。（〇は1つ）

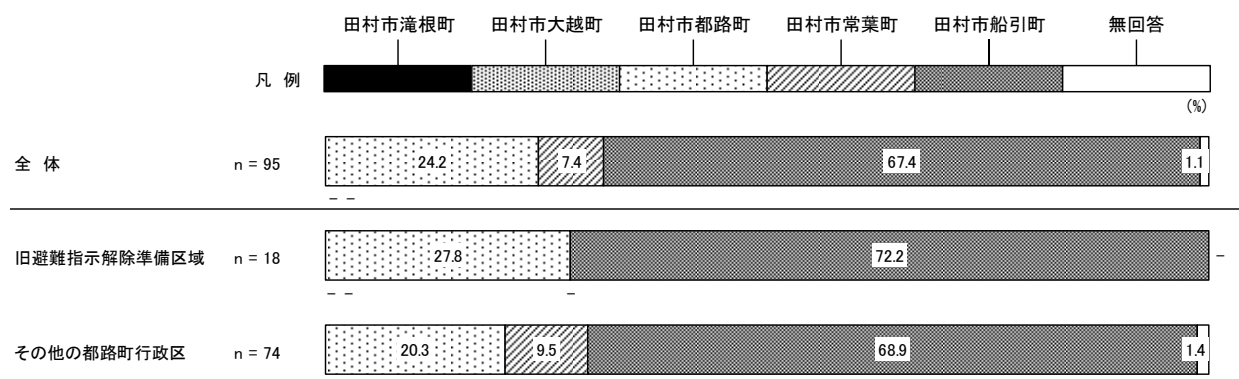
震災発生当時の住居以外の住まい（田村市内）がある場所については、「田村市船引町」が67.4%、「田村市都路町」が24.2%、「田村市常葉町」が7.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「田村市常葉町」は10～30代（14.3%）、40代（15.4%）で高い。
震災発生当時の居住地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-1-9-1 震災発生当時の住居以外の住まい（田村市内）がある場所（年齢別）>



<図表3-1-9-2 震災発生当時の住居以外の住まい（田村市内）がある場所（震災発生当時の居住地域別）>



3-1-10 震災発生当時の住居以外に居住している場合の住居形態

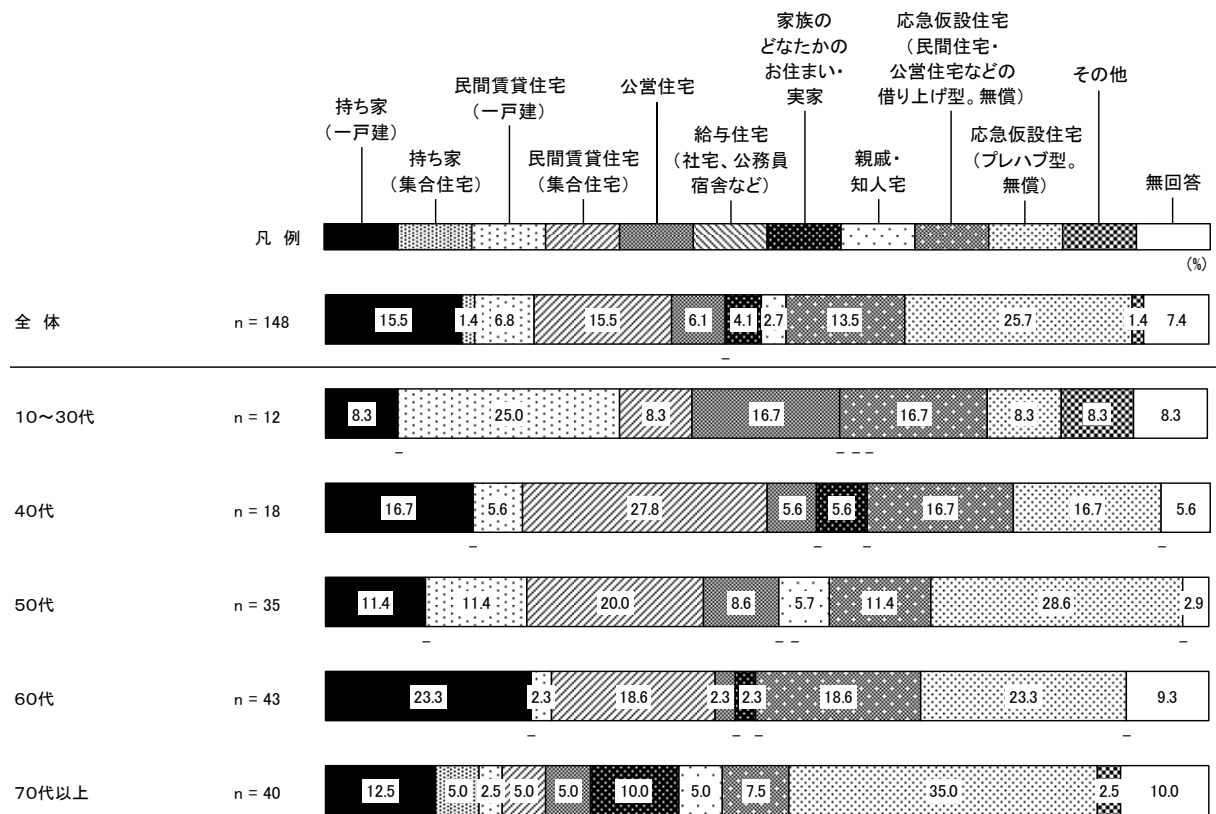
【問7で「2. 震災発生当時の住居以外」または「3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方】

問14 現在お住まいの、震災発生当時の住居以外のお住まいは、どのような形態ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居以外に居住している場合の住居形態については、「応急仮設住宅(プレハブ型。無償)」が25.7%、「持ち家(一戸建)」、「民間賃貸住宅(集合住宅)」がいずれも15.5%、「応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)」が13.5%となっている。

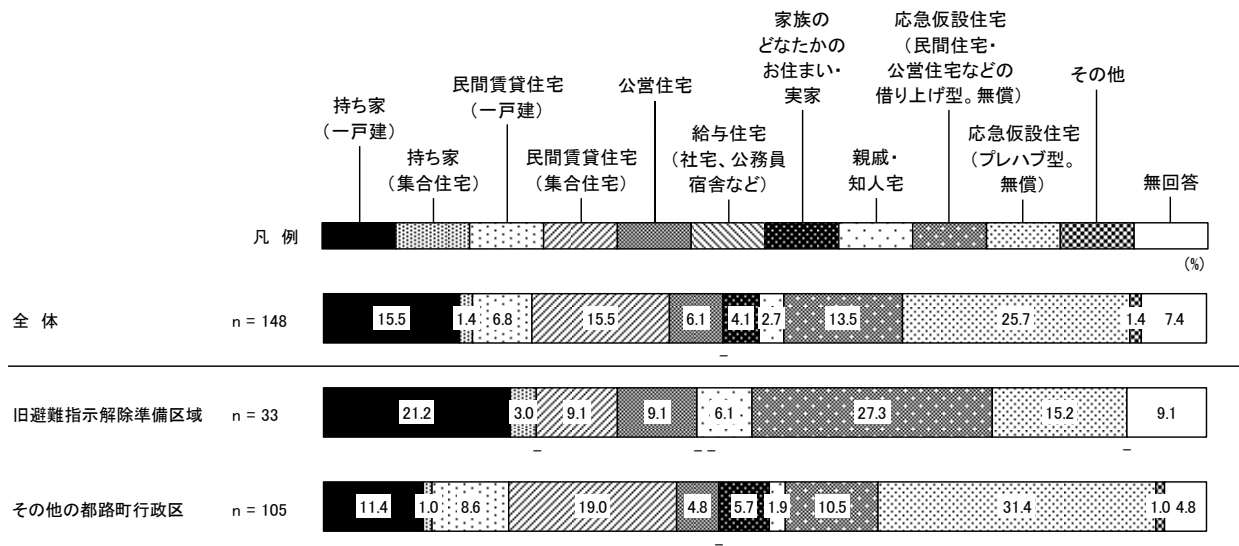
回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅(プレハブ型。無償)」は70代以上(35.0%)で、「持ち家(一戸建)」は60代(23.3%)で、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は40代(27.8%)で、「応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)」は60代(18.6%)で他の年齢に比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-10-1 震災発生当時の住居以外に居住している場合の住居形態(年齢別)>



震災発生当時の居住地域別にみると、旧避難指示解除準備区域では、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」（27.3%）、「持ち家（一戸建）」（21.2%）が高い。一方、その他の都路町行政区では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（31.4%）が高くなっている。

<図表3-1-10-2 震災発生当時の住居以外に居住している場合の住居形態（震災発生当時の居住地域別）>



3-2 将来の意向

3-2-1 田村市への居住意向

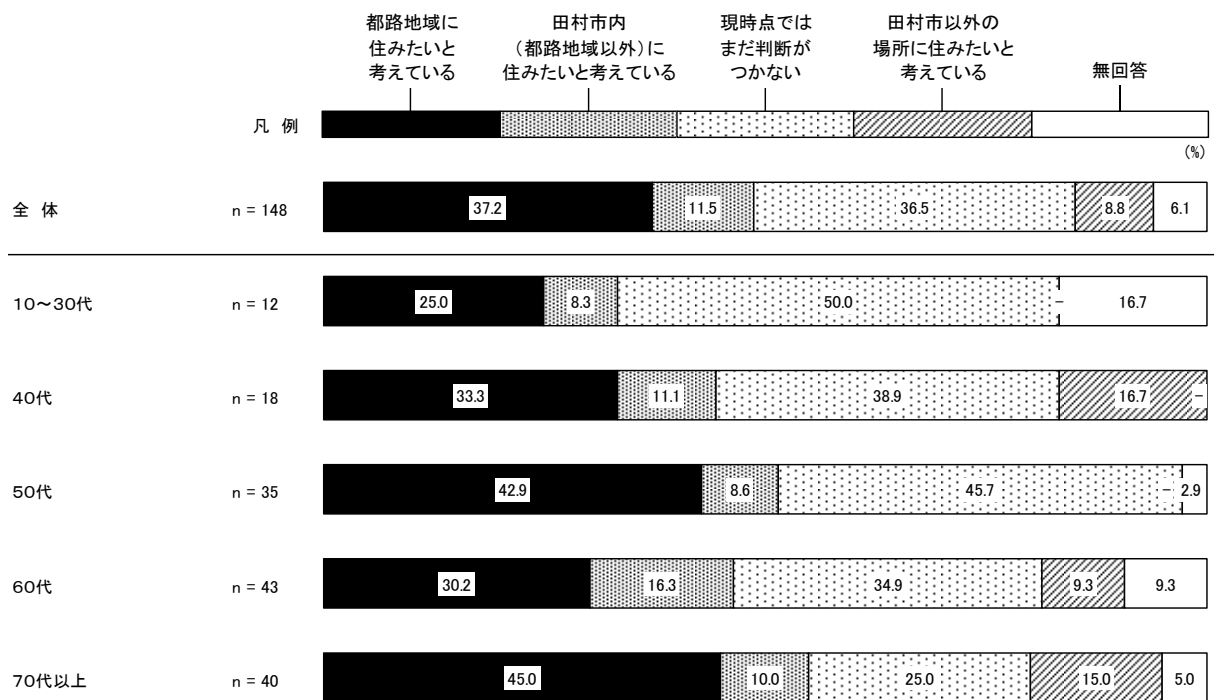
【問7で「2. 震災発生当時の住居以外」または「3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方】

問15 今後のお住まいについて、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

現在「震災発生当時の住居以外」及び「震災発生当時の住居とそれ以外を行き来している」場合の、今後の居住意向については、「都路地域に住みたいと考えている」が37.2%、「現時点ではまだ判断がつかない」が36.5%、「田村市内（都路地域以外）に住みたいと考えている」が11.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「都路地域に住みたいと考えている」は70代以上(45.0%)、50代(42.9%)で、「現時点ではまだ判断がつかない」は10~30代(50.0%)、50代(45.7%)で、「田村市以外の場所に住みたいと考えている」は40代(16.7%)、70代以上(15.0%)で、他の年齢と比べ割合が高くなっている。

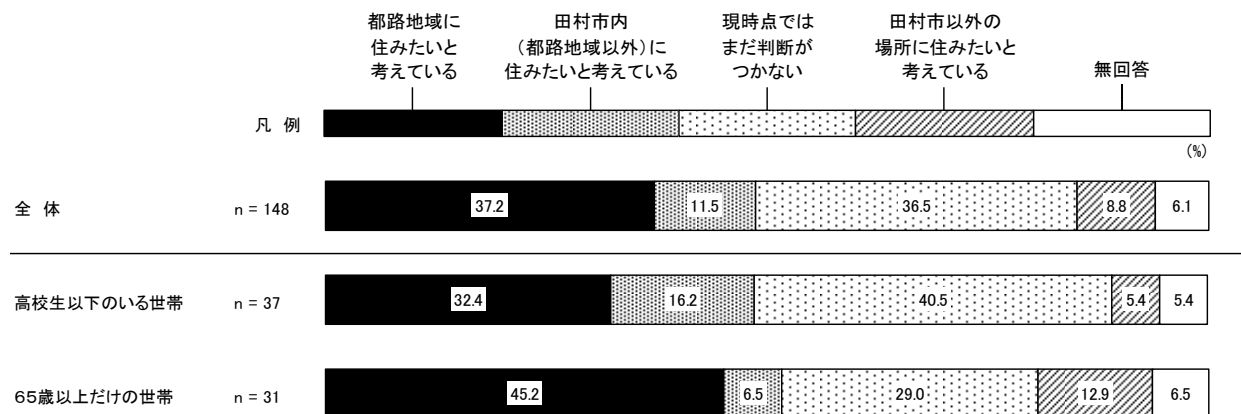
<図表3-2-1-1 田村市への居住意向（年齢別）>



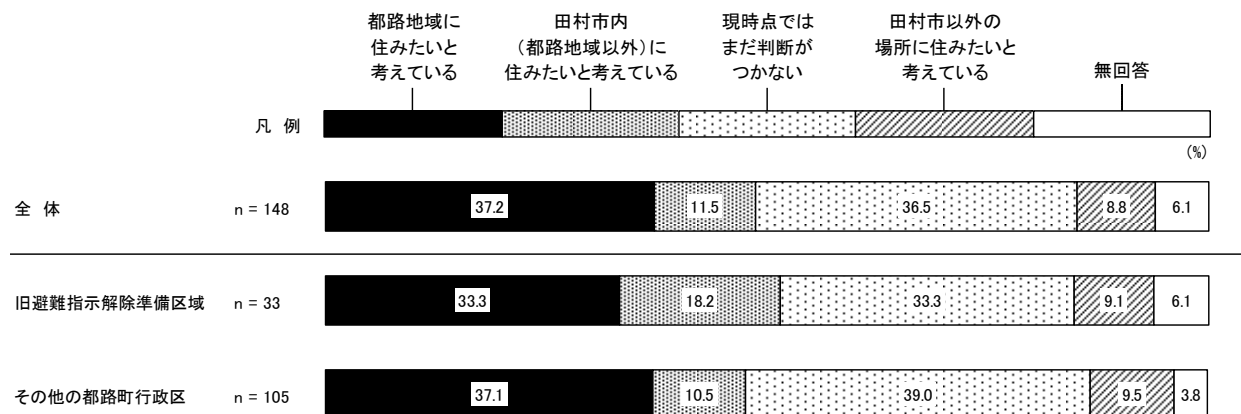
世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯で「都路地域に住みたいと考えている」(45.2%)で高くなっている。一方、高校生以下のいる世帯では「田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている」(16.2%)が高い。

震災発生当時の居住地域別にみると、「田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている」は旧避難指示解除準備区域(18.2%)で高くなっている。

<図表3-2-1-2 田村市への居住意向(世帯構成別)>

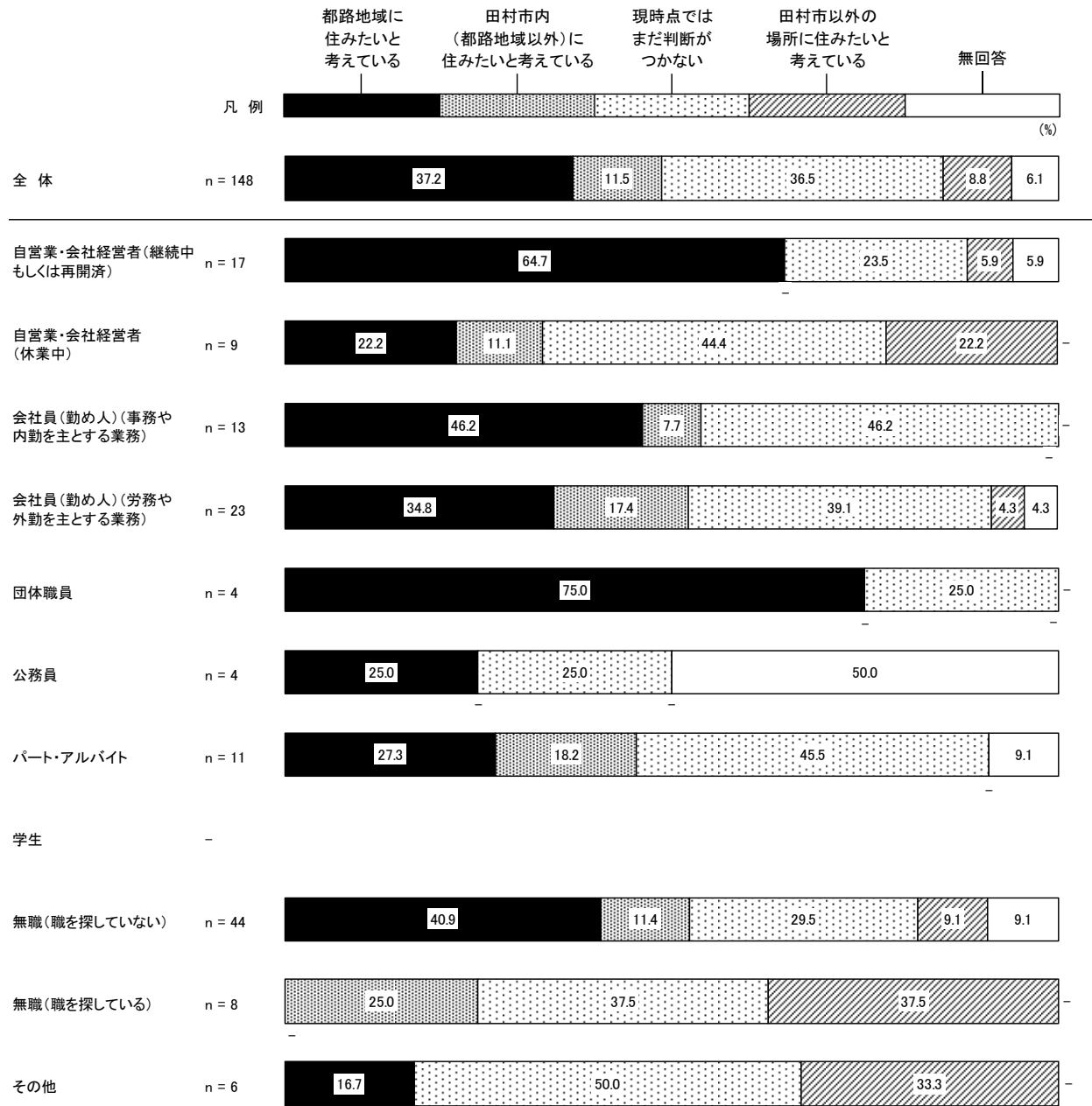


<図表3-2-1-3 田村市への居住意向(震災発生当時の居住地域別)>



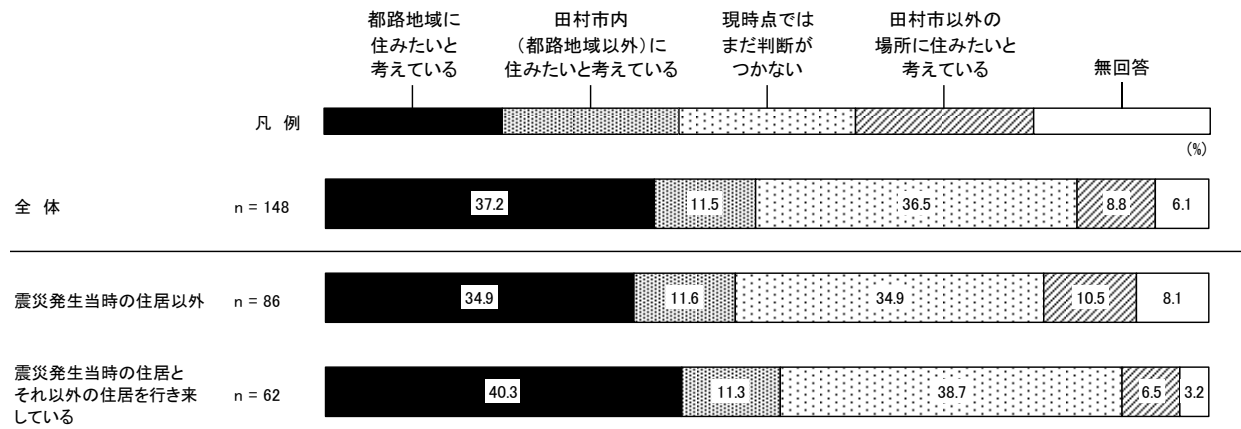
職業別にみると、「都路地域に住みたいと考えている」は自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）（64.7%）などで高くなっている。

<図表3-2-1-4 田村市への居住意向（職業別）>



現在の住まいの場所別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-2-1-5 田村市への居住意向（現在の住まいの場所別）>



3-2-2 田村市への帰還時期

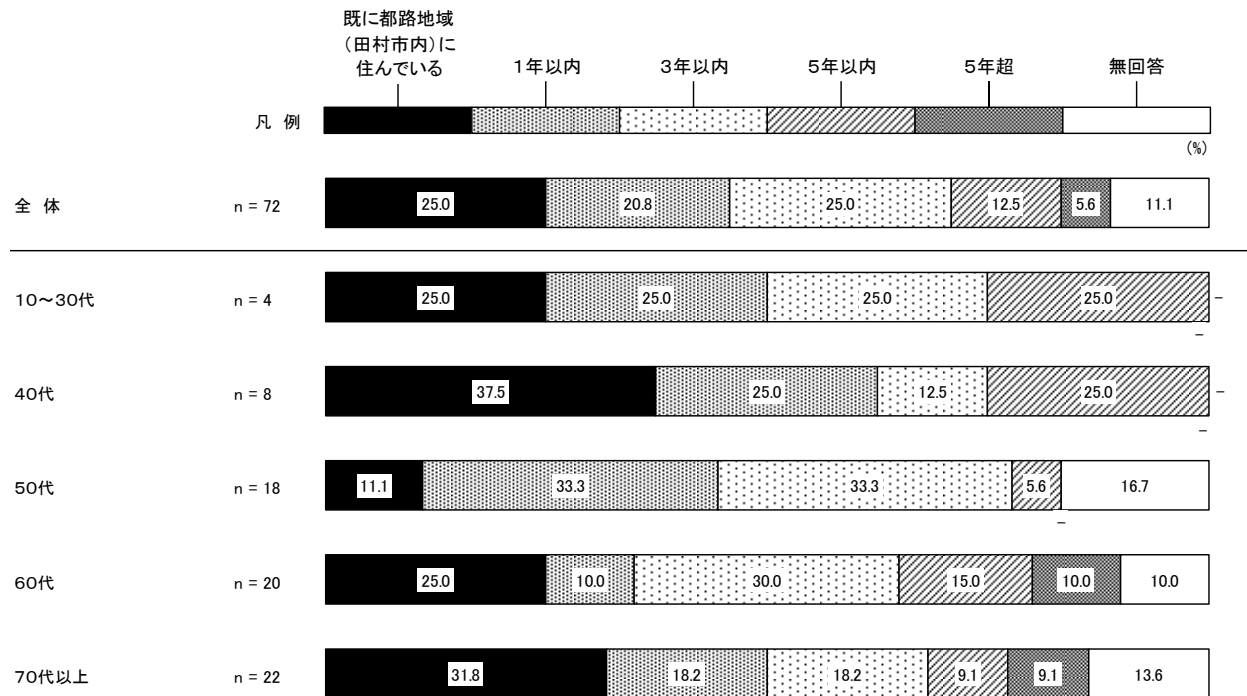
【問 15 で「1. 都路地域に住みたいと考えている」または「2. 田村市内（都路地域以外）に住みたいと考えている」と回答した方】

問 16 都路地域または田村市内（都路地域以外）に住む時期について、現在のお考えをお聞かせください。（〇は1つ）

田村市への帰還時期については、「既に都路地域(田村市内)に住んでいる」、「3年以内」がいずれも 25.0%、「1年以内」が 20.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「既に都路地域(田村市内)に住んでいる」は 40代(37.5%)、70代(31.8%)で、「1年以内」は 50代(33.3%)で、「3年以内」は 50代(33.3%)、60代(30.0%)で高くなっている。

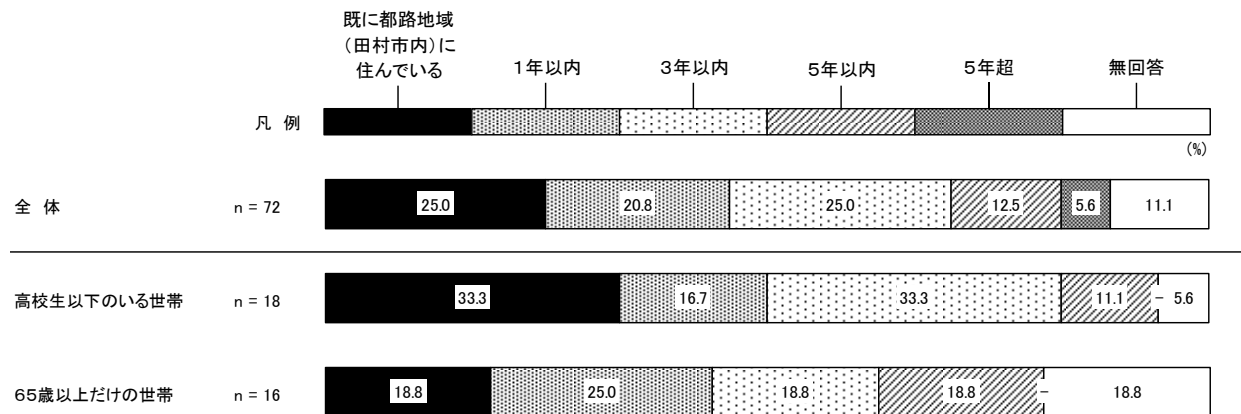
<図表 3-2-2-1 田村市への帰還時期（年齢別）>



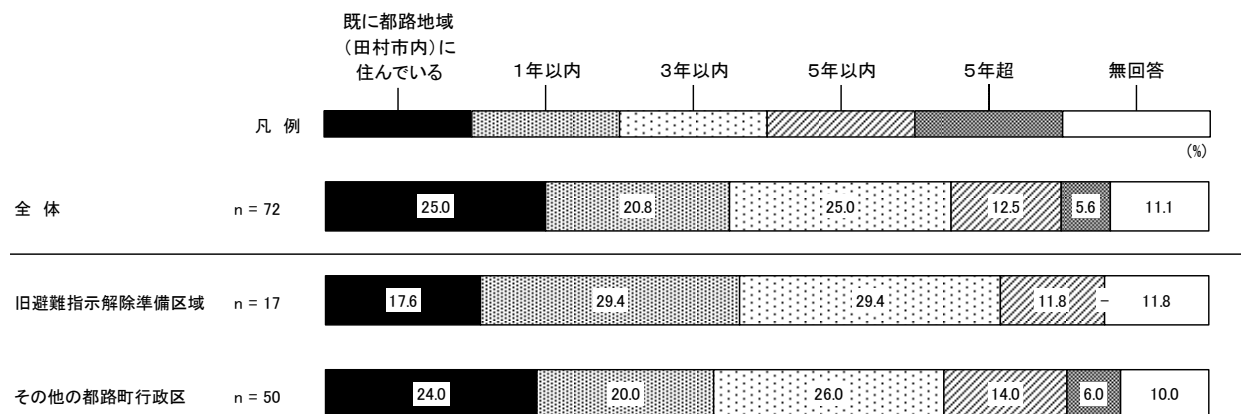
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「既に都路地域（田村市内）に住んでいる」（33.3%）、「3年以内」（33.3%）が高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「1年以内」（25.0%）、「5年以内」（18.8%）が高い。

震災発生当時の居住地域別にみると、旧避難指示解除準備区域では「1年以内」（29.4%）が高い。

<図表3-2-2-2 田村市への帰還時期（世帯構成別）>



<図表3-2-2-3 田村市への帰還時期（震災発生当時の居住地域別）>



3-2-3 田村市へ帰還する場合の住居形態

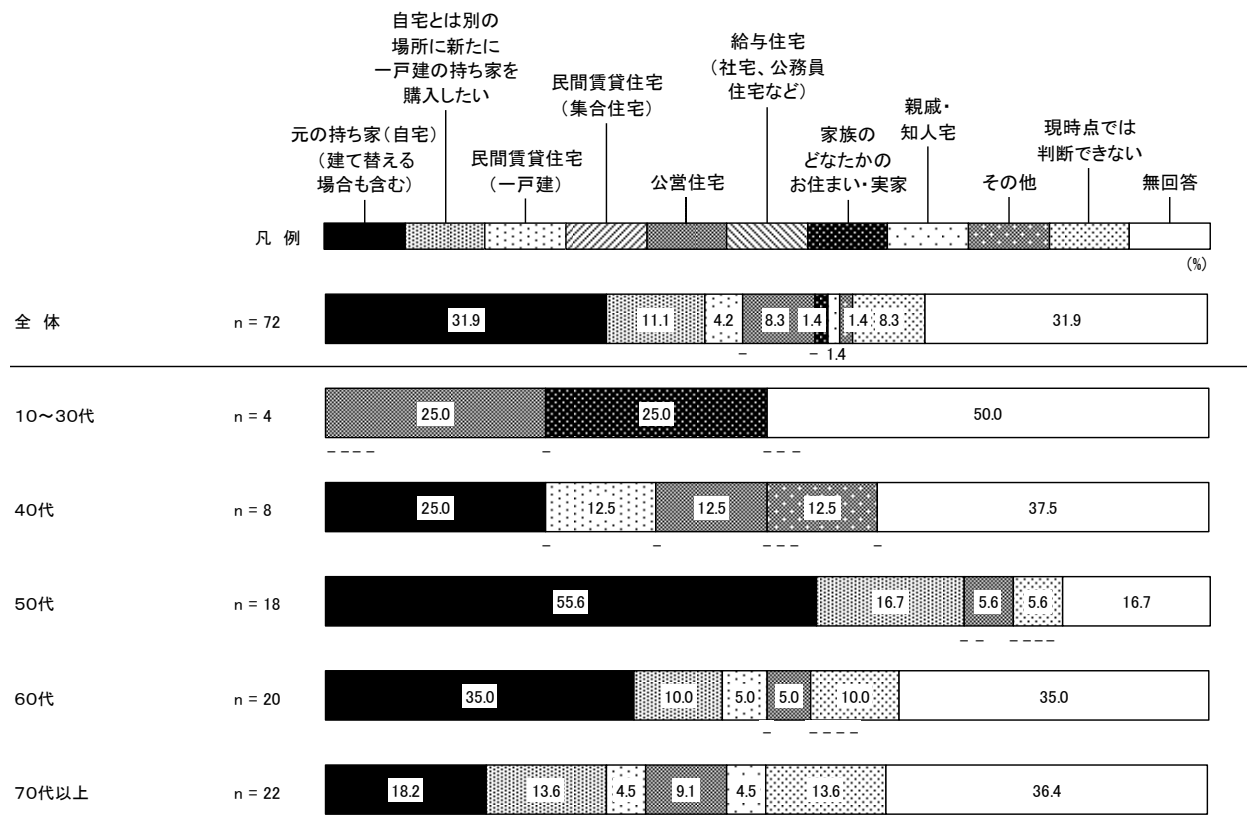
【問 15 で「1. 都路地域に住みたいと考えている」または「2. 田村市内（都路地域以外）に住みたいと考えている」と回答した方】

問 17 都路地域または田村市内（都路地域以外）に住みたいと考えている方で、その場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

田村市へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合も含む）」が 31.9% で最も高い。

回答者の年齢別にみると、50代で「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」（55.6%）、「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を購入したい」（16.7%）が高くなっている。

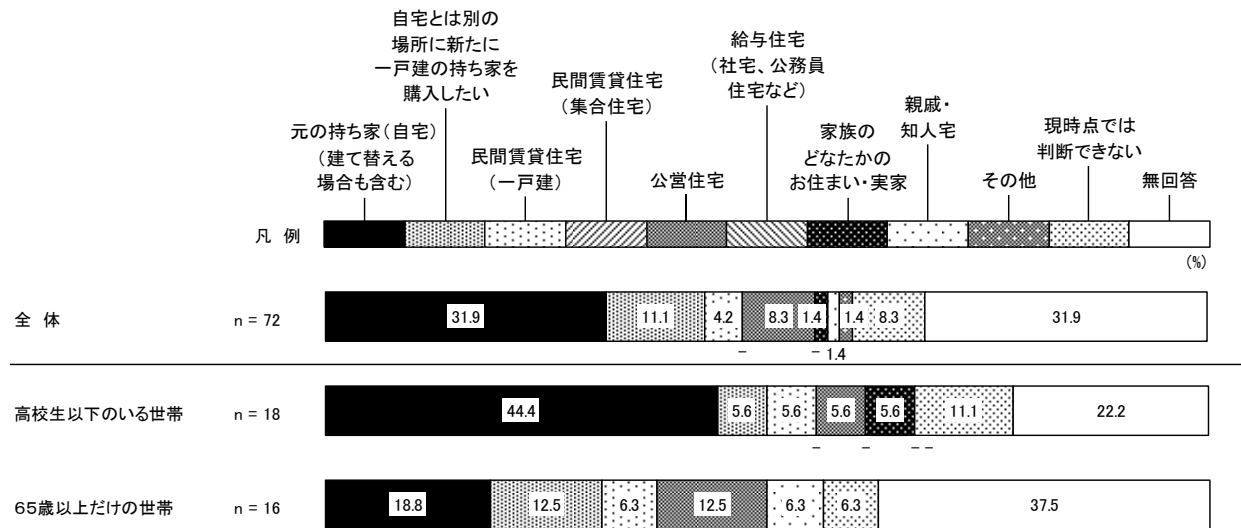
<図表3-2-3-1 田村市へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>



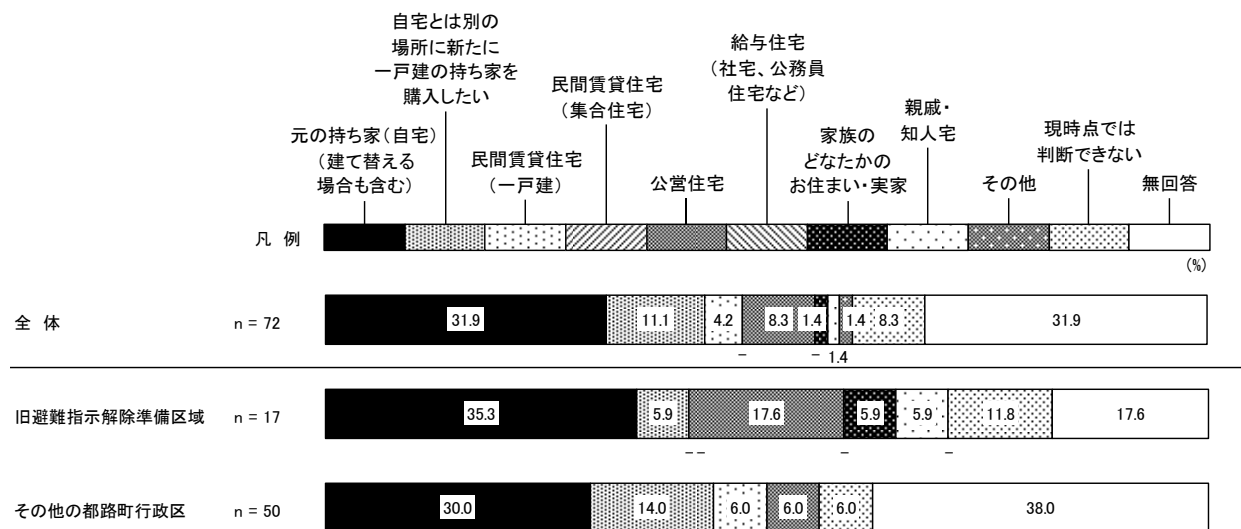
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」(44.4%)が高い。

震災発生当時の居住地域別にみると、旧避難指示解除準備区域で「公営住宅」(17.6%)が高くなっている。

<図表3-2-3-2 田村市へ帰還する場合の住居形態(世帯構成別)>



<図表3-2-3-3 田村市へ帰還する場合の住居形態(震災発生当時の居住地域別)>



3-2-4 田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

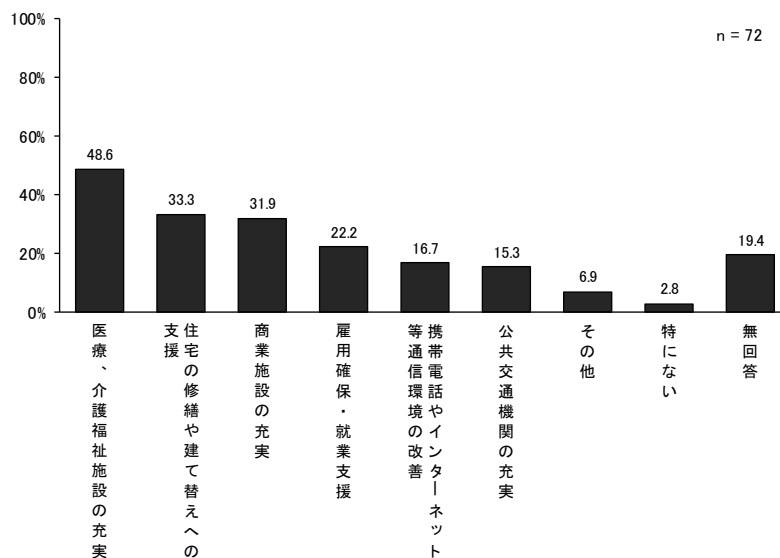
【問 15 で「1. 都路地域に住みたいと考えている」または「2. 田村市内（都路地域以外）に住みたいと考えている」と回答した方】

問 18 田村市での今後の生活においてどのような支援を求めますか。（〇はいくつでも）

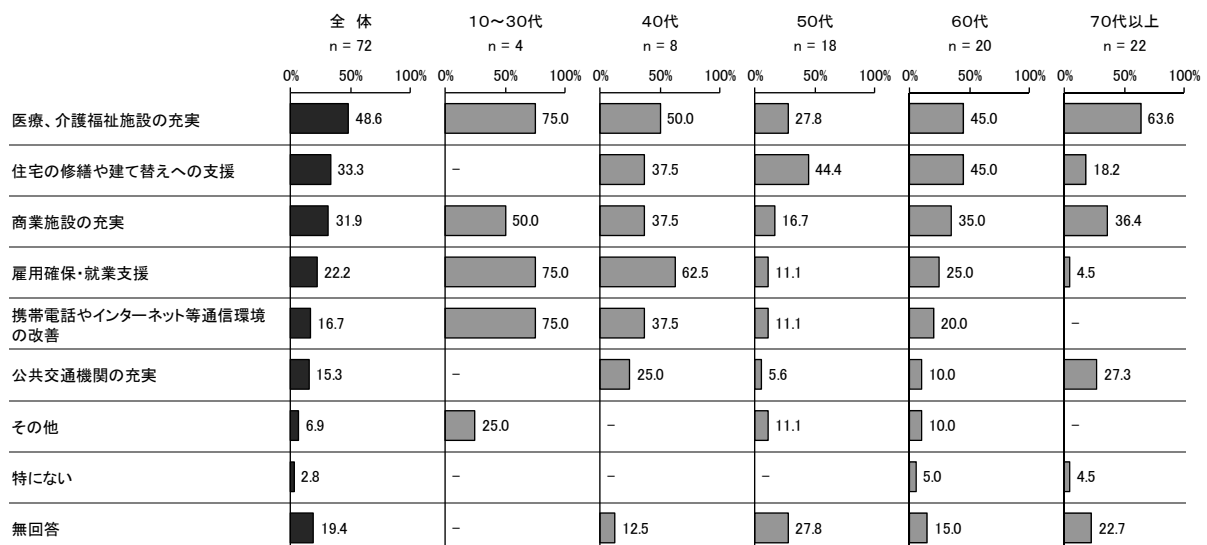
田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の充実」が48.6%、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が33.3%、「商業施設の充実」が31.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「医療、介護福祉施設の充実」は70代以上（63.6%）で6割以上となっている。「住宅の修繕や建て替えへの支援」は50代（44.4%）、60代（45.0%）で、「公共交通機関の充実」は70代以上（27.3%）で高い。

<図表3-2-4-1 田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>



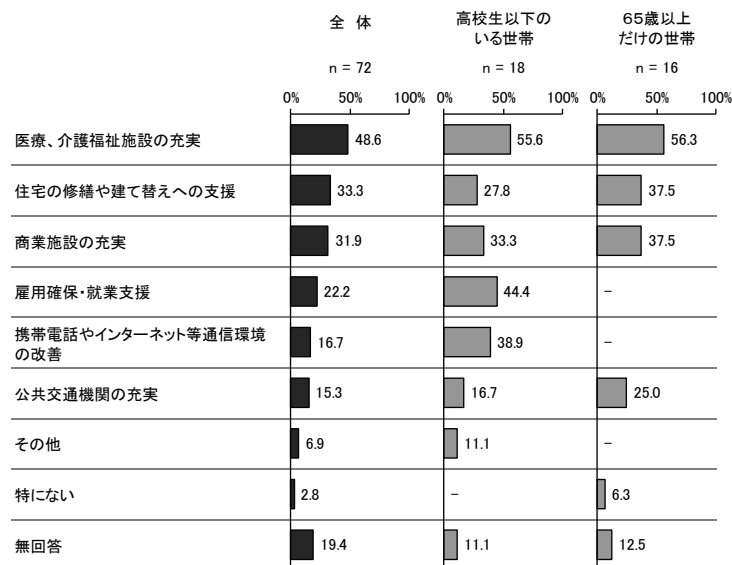
<図表3-2-4-2 田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



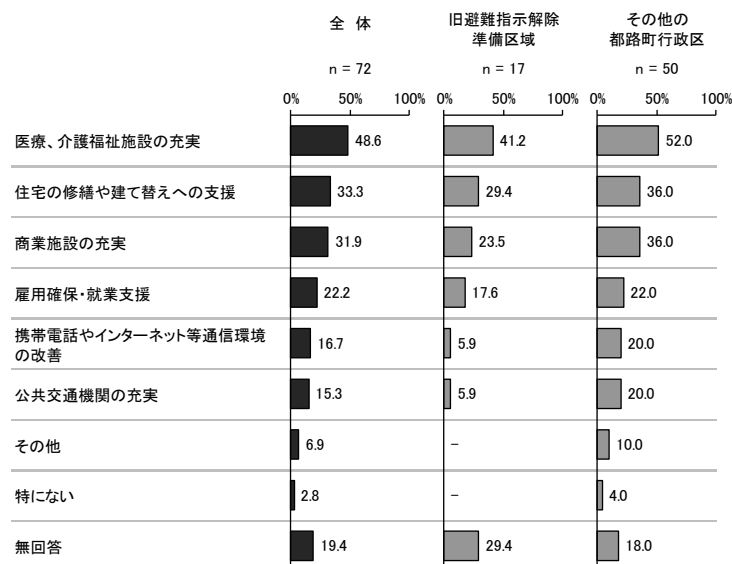
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「医療、介護福祉施設の充実」(55.6%)、「雇用確保・就業支援」(44.4%)、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」(38.9%)が高い。一方、65歳以上の世帯では「医療、介護福祉施設の充実」(56.3%)、「公共交通機関の充実」(25.0%)が全体と比較すると高くなっている。

震災発生当時の居住地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-2-4-3 田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



<図表3-2-4-4 田村市へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（震災発生当時の居住地域別）>



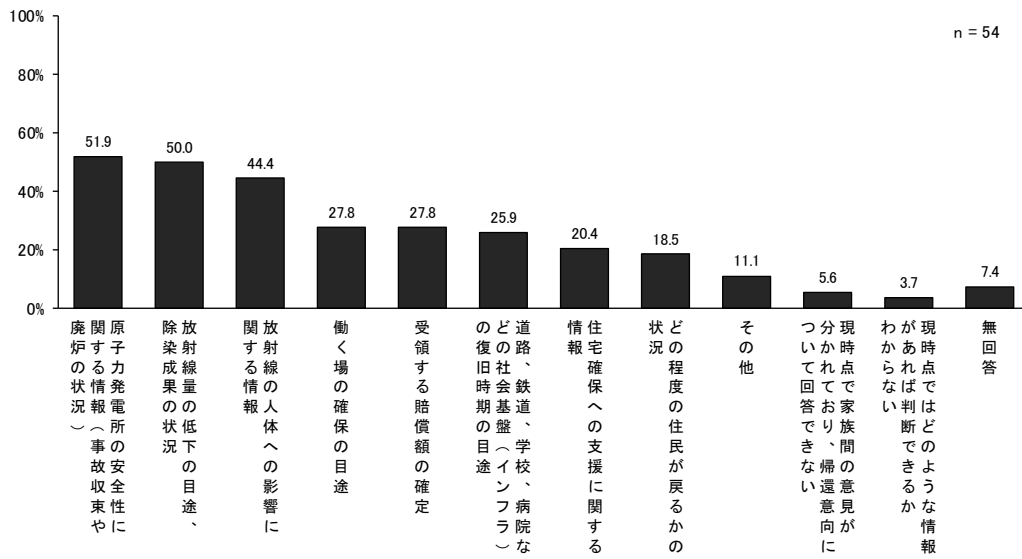
3-2-5 田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問 15 で「3. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方】

問 21 今後のお住まいについて判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

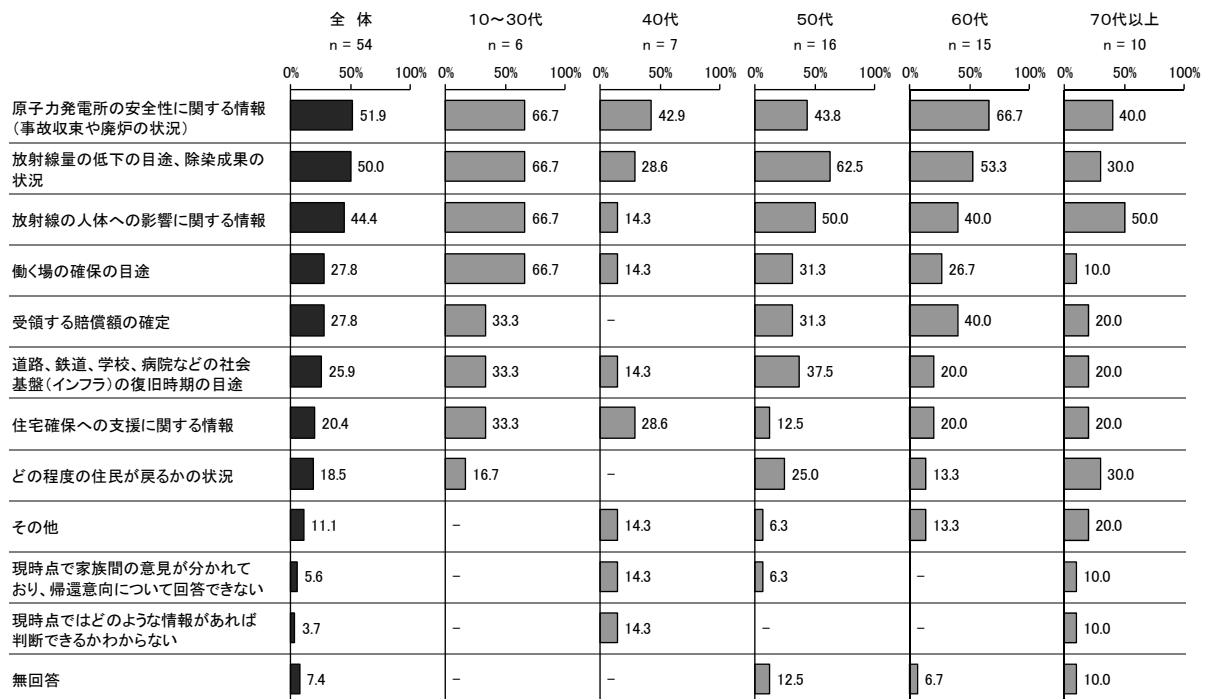
田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が 51.9%、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が 50.0%、「放射線の人体への影響に関する情報」が 44.4%となっている。

<図表 3-2-5-1 田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報>



回答者の年齢別にみると、50代で「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」(62.5%)、「放射線の人体への影響に関する情報」(50.0%)、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目処」(37.5%)、「どの程度の住民が戻るかの状況」(25.0%)、60代で「原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)」(66.7%)、「受領する賠償額の確定」(40.0%)、70代以上で「放射線の人体への影響に関する情報」(50.0%)、「どの程度の住民が戻るかの状況」(30.0%)が全体と比較すると高くなっている。

<図表3-2-5-2 田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報(年齢別)>

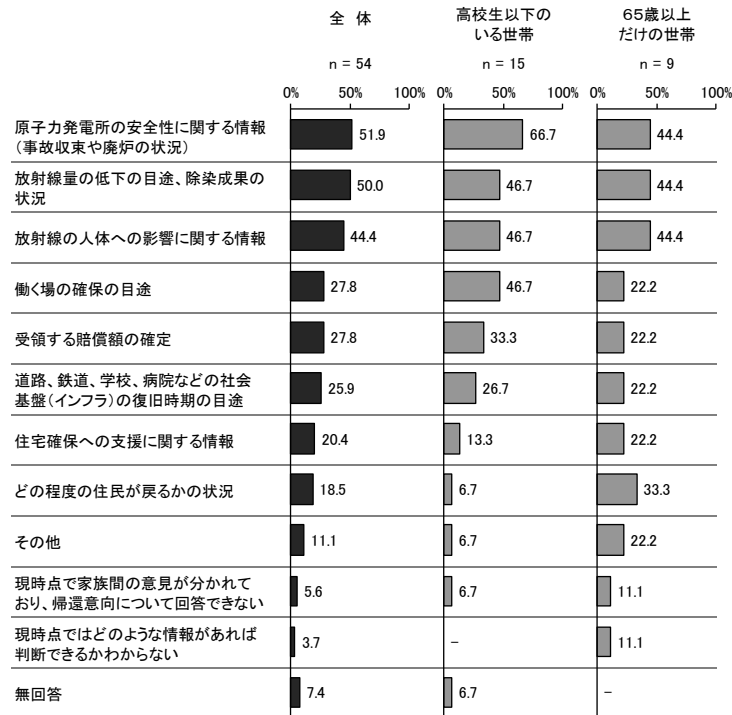


III 調査結果

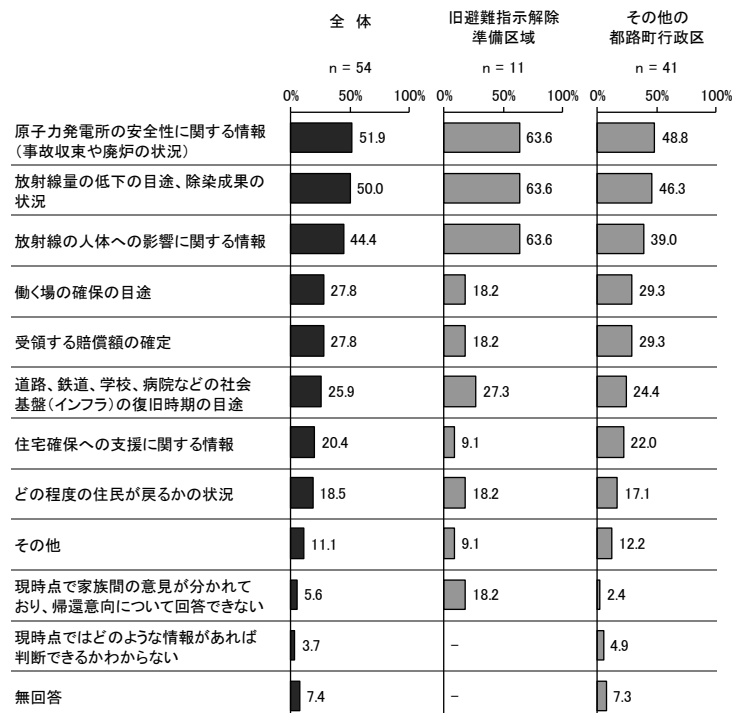
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」（66.7%）、「働く場の確保の目途」（46.7%）、「受領する賠償額の確定」（33.3%）が、65歳以上の世帯では「どの程度の住民が戻るかの状況」（33.3%）が全体と比較すると高くなっている。

震災発生当時の居住地域別にみると、旧避難指示解除準備区域では「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」（63.6%）、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」（63.6%）、「放射線の人体への影響に関する情報」（63.6%）が高くなっている。

<図表3-2-5-3 田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>



<図表3-2-5-4 田村市への帰還を判断する上で必要と思う情報（震災発生当時の居住地域別）>



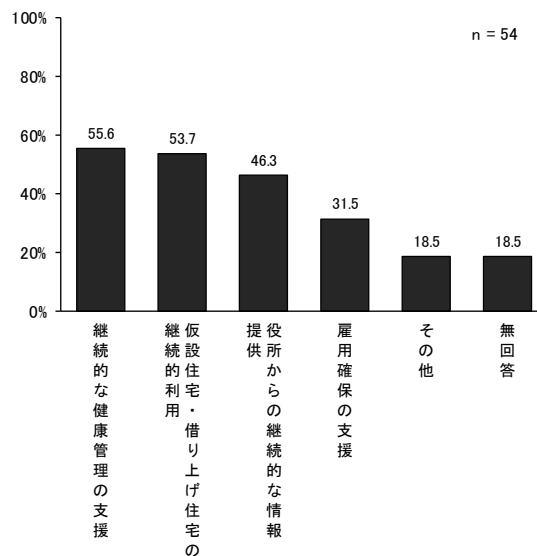
3-2-6 田村市への帰還の判断がつかない場合に今後の生活に必要な支援

【問 15 で「3. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方】
 問 22 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

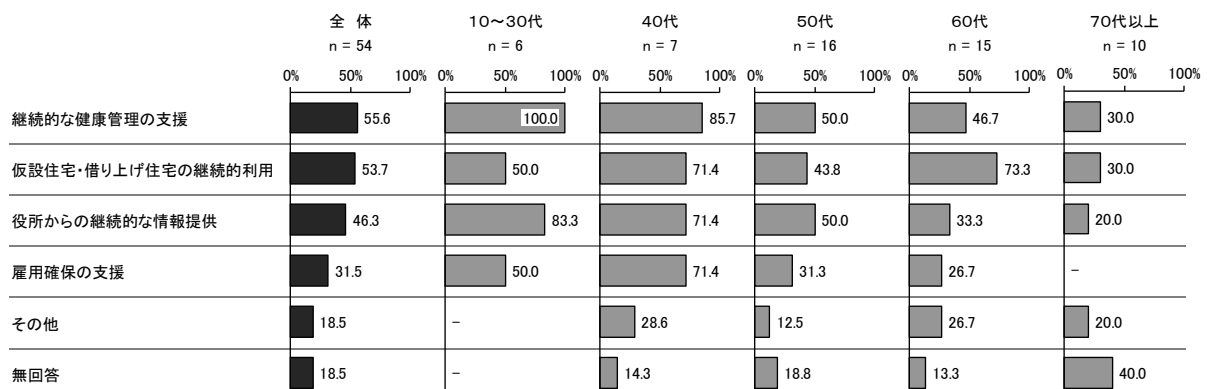
田村市への帰還に判断がつかない場合に今後の生活に必要な支援については、「継続的な健康管理の支援」が55.6%、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」が53.7%、「役所からの継続的な情報提供」が46.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」は60代(73.3%)で比較的高くなっている。

<図表3-2-6-1 田村市への帰還に判断がつかない場合に今後の生活に必要な支援>



<図表3-2-6-2 田村市への帰還に判断がつかない場合に今後の生活に必要な支援(年齢別)>

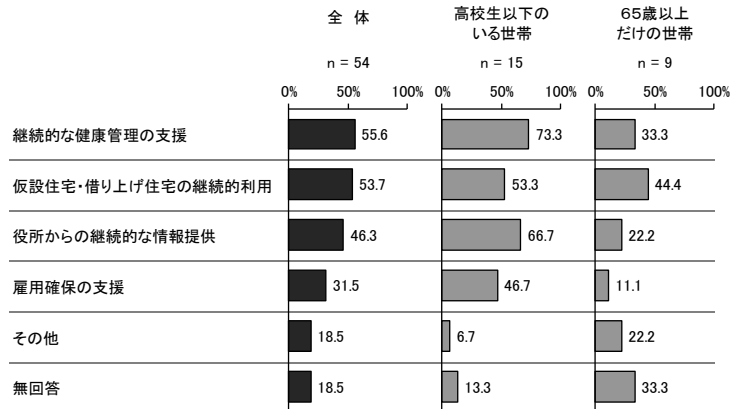


III 調査結果

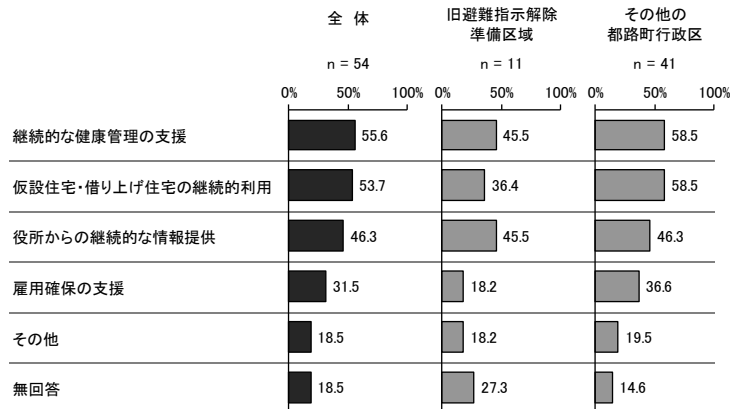
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「継続的な健康管理の支援」(73.3%)、「役所からの継続的な情報提供」(66.7%)、「雇用確保の支援」(46.7%)が全体と比較すると高い。

震災発生当時の居住地域別にみると、その他の都路町行政区では「雇用確保の支援」(36.6%)が全体と比較すると高くなっている。

<図表3-2-6-3 田村市への帰還に判断がつかない場合に今後の生活に必要な支援(世帯構成別)>



<図表3-2-6-4 田村市への帰還に判断がつかない場合に今後の生活に必要な支援(震災発生当時の居住地域別)>



3-2-7 田村市へ帰還しない場合の今後の意向（参考値）

(1) 田村市に戻らないと考えている理由

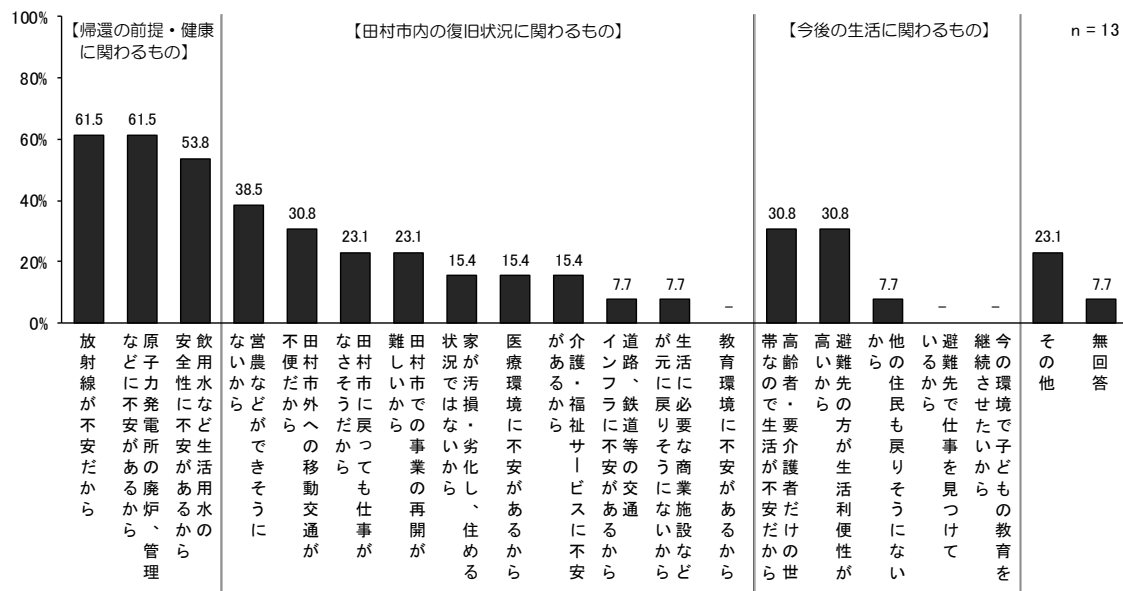
【問 15 で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方】
 問 25 田村市以外に住みたい理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

田村市に戻らないと考えている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「放射線量が不安だから」が61.5%、「原子力発電所の廃炉、管理などに不安があるから」が61.5%、「飲料水などの生活用水の安全性に不安があるから」が53.8%となっている。

【田村市内の復旧状況に関わるもの】では、「営農などができそうにないから」が38.5%、「田村市外への移動交通が不便だから」が30.8%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」、「避難先の方が生活利便性が高いから」がいずれも30.8%となっている。

<図表3-2-7-1 田村市に戻らないと考えている理由>



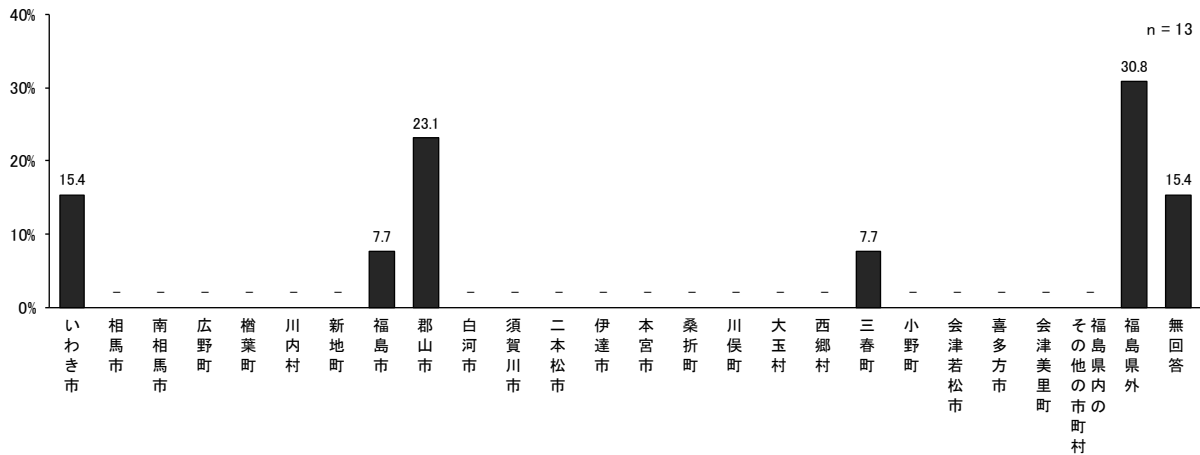
(2) 帰還しない場合に居住したい自治体

【問 15 で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方】

問 26 今後、居住を希望する（既に居住している場合を含む）自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（○は1つ）

帰還しない場合に居住したい自治体については、「郡山市」が 23.1%、「いわき市」が 15.4%、「福島県外」が 30.8%となっている。

<図表3-2-7-2 帰還しない場合に居住したい自治体>



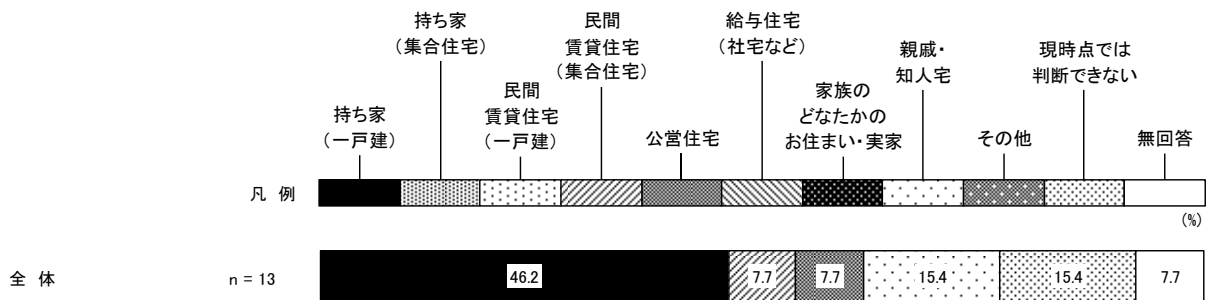
(3) 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

【問 15 で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方】

問 27 今後のお住まいとして、想定される（既に居住している場合を含む）お住まいはどのような形態ですか。（○は1つ）

帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が 46.2%、「親戚・知人宅」が 15.4%となっている。

<図表3-2-7-3 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態>

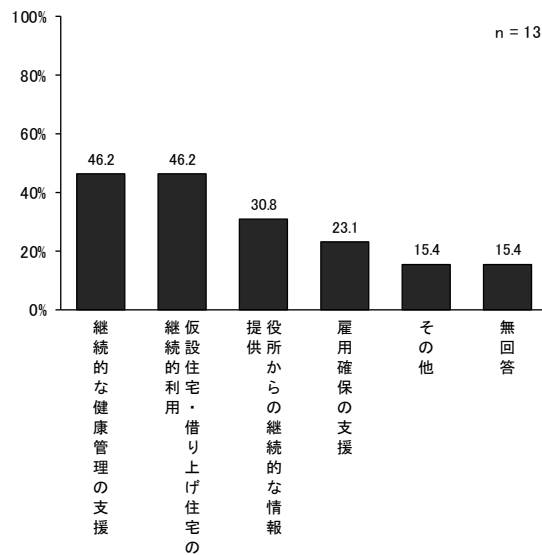


(4) 帰還しない場合に今後の生活において希望する支援

【問 15 で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方】
 問 28 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

帰還しない場合に今後の生活において希望する支援については、「継続的な健康管理の支援」が 46.2%、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」が 46.2%、「役所からの継続的な情報提供」が 30.8%となっている。

<図表3-2-7-4 帰還しない場合に今後の生活において希望する支援>



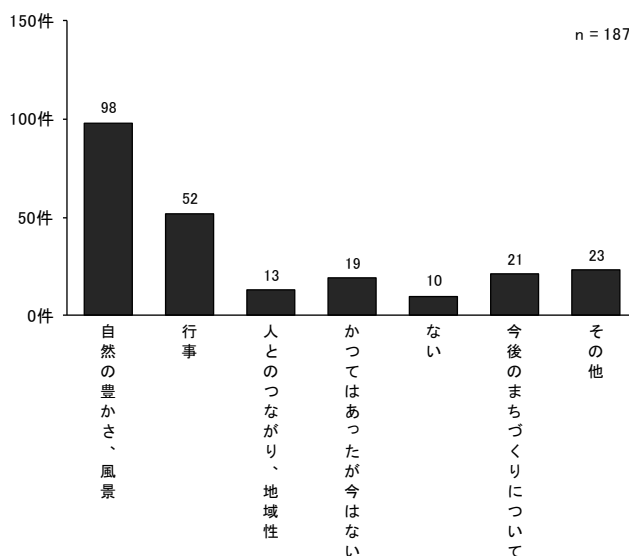
3-2-8 田村市の自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの

問9・問19・問23・問29

田村市（都路地域）の「自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの（風景、伝統、行事など）」をご自由にお書きください。今後の田村市（都路地域）のまちづくりのための参考とさせていただきます。

田村市の自慢できるところ、魅力、後世に残したいものについては、「自然の豊かさ・風景」が98件、「行事」が52件、「人とのつながり・地域性」が13件などとなっている。

<図表3-2-8-1 田村市の自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

[自然の豊かさ、風景]

- 水がきれい。(30代)
- 自然・いなか。昔を思わせる風景がある。(30代)
- 水と大災害のない土地は、お金で買えない大きな資源だと思います。そして、便利すぎない環境も、将来重要視されることになると思っています。(40代)
- 自然豊かで、子供がのびのび生活できる場所。(40代)
- 行事ヶ滝という素晴らしい自然がある場所。(50代)
- 雑木林と溪流、特に高瀬川へつながる行司ヶ滝と行司沢、林道。(50代)
- 豊かな自然（水、空気、山林、田園風景）、田舎、ふるさとの風景（60代）
- 典型的な里山の風景、自然環境。(60代)
- 雑木林が沢山あり、自然と共に生活できたこと（70代）
- 四季折々の里山の風景、空、星、月、畔や水辺の生物、野草等。(70代以上)

[行事]

- 自慢できる物は、原発事故で失ってしまいましたが、伝統行事である、盆踊り、神社の例大祭、灯まつり等は、若い人が少なくなり運営が大変ですが、町民達が力を合わせて存続して行くべきだと思います。(40代)
- 他地区から見に来る都路の灯まつりを盛大に。(40代)
- だんだん震災前のように町のイベントが増えてきました。体育祭が今年から、復活しました。午前中だけですが、どのぐらいの人たちが集まってくるか楽しみです。(50代)
- 各集落での観世音の祭礼、山の神の祭礼等で集落の結束をはかり、絆を大切に、若者(後継者)の定住をはかる(50代)
- 岩井沢の秋のお祭りで、天日鷲神社で舞われた三匹獅子。家々をまわったおみこし。(50代)
- 岩井沢地区の、市の無形文化財、神社(祭礼時)三匹獅子舞(保在会)の生き残りを大切にしたい。(60代)
- 大亀神社の秋祭りの維持。(60代)
- 祭事等は後世に残して頂ければと思います。(70代以上)
- “都路灯まつり”は、他の地区に自慢出来る、素晴らしい行事だと思っています。これからも行政の力添えをお願い致します。(70代以上)
- 現在、地区、地域に残り引き継がれている行事、祭事は引き継いでもらいたい。(70代以上)

[人とのつながり、地域性]

- 人がおだやか。(40代)
- 何も無い所が自慢のできるどころであり、他県者の新規居住者の受け入れも良かった。(50代)
- 私は都路なんて知らなかったけどきて住んでみたら皆やさしい。きどっていないの都路の人達は皆いい人ばかり。(60代)
- 生活する中で人情味あふれる地域。(60代)
- 都路のキャッチフレーズであった「ぬくもりとやすらぎの里都路」。(60代)
- 地域住民の方々は地域への愛着や人間同士のつながりは大変強い所です。街作りの活性化に強い絆は不可欠であり、大きな宝資源になります。都路の宝物です。(60代)
- 人と人とのつながりの良さ。(70代以上)
- 人とのつながりを大切に、お互いが楽しく暮らせること。(70代以上)
- 10年前は一つの村であった。その村は村なりの結と云うか目にみえない絆で生活をして来た。原発事故以来その形がくずれてきた。その一番の自慢は村の絆であった。(70代以上)
- 昔からの伝統とか行事があって心と心が人とのつながりになったと思っています。(70代以上)

3-3 意見・要望

問 10・問 20・問 24・問 29

国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、224 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難指示区域等の設定について ・帰還に関する施策について ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・その他
<p>●廃炉作業や除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業全般について ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他 	

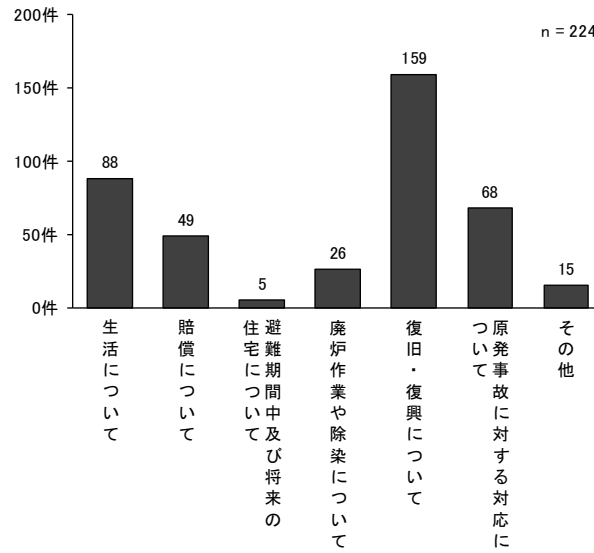
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、7の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「復旧・復興について」が159件と最も多く、次いで「生活について」が88件、「原発事故について」が68件などとなっている。

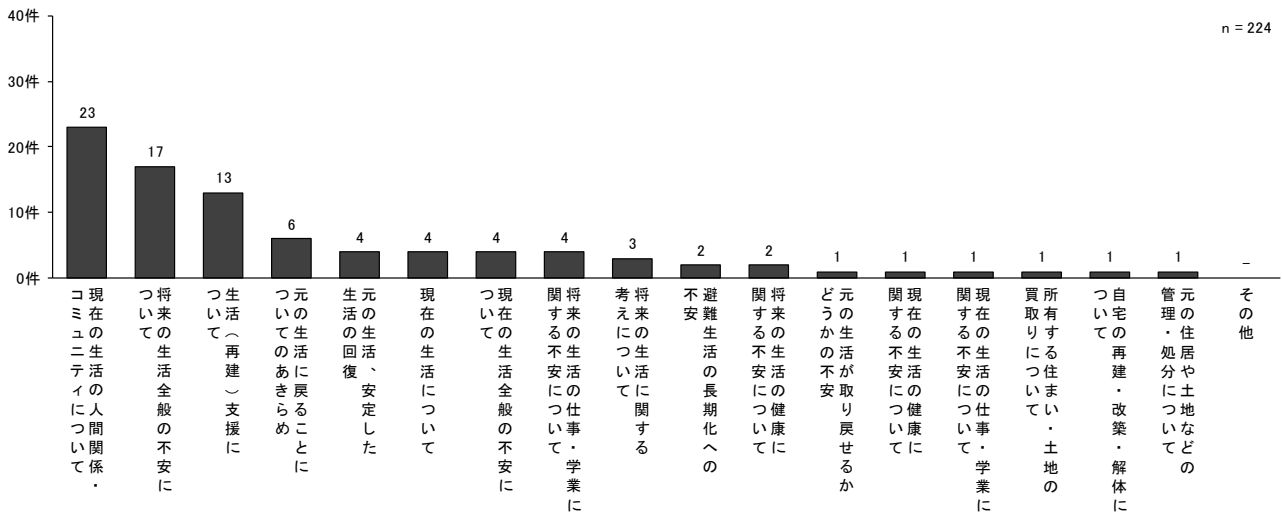
<図表3-3-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「現在の生活の人間関係・コミュニティについて」が23件と最も多く、次いで「将来の生活全般の不安について」が17件、「生活（再建）支援について」が13件などとなっている。

<図表3-3-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[現在の生活の人間関係・コミュニティについて]

- 賠償金の問題、20kmの外・内で都路の人間関係が分断してしまったと感じるがどう考えているのか？ 田村市全体で考えるのではなく、都路町だけを見て復興について考えて欲しい。(30代)
- 船引町の方に行って、自分は都路町の住人である事を話せません。都路の人は全部避難区域の人と同じあつかいになっていて避難区域でもないのにお金もらっているから仕事しなくてもいいのでは。お金もらっていいね、など言われます。町民全部同じあつかいをしてもらいたいです。早く帰った人にこそ手厚いあつかいをしてもらいたいです。(50代)
- この地区（都路、山根の一部）を考え、医療、介護、福祉、商業等、コミュニティがこわれた地域だからこそ、新しい発想で、今できることを、今だからできることを国、県に働きかけて住民ひとりひとりが明るくすこせざるまちづくりをお願いします。(60代)

[将来の生活全般の不安について]

- 今後都路地区は人口が減少していく状況であり、町自体がなくなってしまう恐れがあるため早急に雇用や生活環境に関する対策が必要だと思われる。(50代)
- 私達の町は60以上の人が多くこれから先が心配です。もう少し町を明るくしてほしいです。私達の町は忘れられているのだろうと感じています。(60代)
- 雇用の場がなく、今の日本は農業・林業・漁業などの第一次産業では生活出来ないのが実態である。若者は、仕事を求め、どうしても外に出ていかざるをえない。若者も安心して暮らし、生活の出来るようにしてもらいたい。(70代以上)

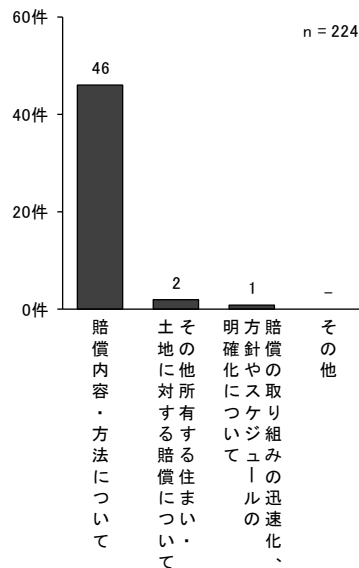
【生活（再建）支援について】

- 子供達が生活するうえで、自然の良さをもっと知ることができるような生活を取りもどせるようにしてほしい（山林の線量低減）。現在は子供の学校の為に都路に戻りましたが、子供の卒業に合わせて転居を考えている為、転居の支援。（30代）
- 避難したことにより母親が認知症となり、その事も原因で戻ることができない。継続して支援（母親だけでも）していただけると助かります。又、当時と変化のある家庭環境（居住だけでなく）にある方々の状況を把握していただき、支援していただければと思います。（40代）
- 都路から、高校へ通学する為には、多額の費用不担が必要となるため、何らかの対策を講じてほしい。（60代）

(2) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が46件と最も多くなっている。

<図表3-3-3 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

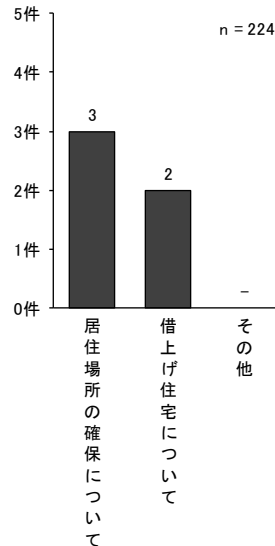
[賠償内容・方法について]

- 震災後の原発による補償が少なすぎる。(30代)
- 20キロ圏内との賠償の違いが多く20キロ~20キロ圏内の人達の不満がある。早く家に帰ってがんばっている人にもっと賠償の充実をしてもらいたい。(40代)
- 私達、20k外の人達はH24/8月で東電からの賠償金も切られ生活も大変なものです。その点に付いて東電、又、国でも考えてもらいたい。(70代以上)

(3) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が3件、「借上げ住宅について」が2件となっている。

<図表3-3-4 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 安心して住める場所の提供をお願いします。(30代)
- 団地をふやして下さい。すぐにいっぱいになるし、借り上げ終了後に住む場所の確保をして下さい。(30代)
- 田村市にも復興住宅を早くつくってください。(70代以上)

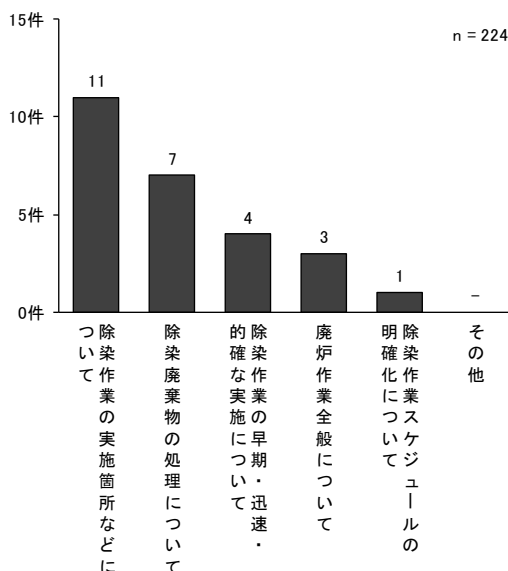
【借上げ住宅について】

- 当地区では仮設住宅（アパート）に、まだ住んでいる人が多いことを聞く。もっと現状把握に努めるべきである。仮設住宅に住んで戻らない人の理由は何か？原因を理解し震災前の都路人口にもどしてほしい。自然な過疎はしかたないと思うが、原発事故の過疎はごめんだ！（50代）
- 古道岩井沢の一戸建の賃貸住宅はいらない。仮設住宅・借り上げ住宅は早く船引町に早く返したほうが良い（60代）

(4) 廃炉作業や除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の実施箇所などについて」が11件と最も多く、次いで「除染廃棄物の処理について」が7件、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が4件などとなっている。

<図表3-3-5 廃炉作業や除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の実施箇所などについて】

- 森林の除染。(50代)
- 住宅周辺の再除染及び山林の除染作業が必要である。(60代)
- 未除染地や山林等の除染は手つかずで、このまま忘れ去り通そうとしている。除染して線量が下り、人体に影響ないなら「放射能の安全」をもっと解かるように周知して欲しい。(70代以上)

【除染廃棄物の処理について】

- 原発事故に対する国の対応は信頼できないが、真剣に対応して欲しい。特に中間貯蔵施設と最終処分場。29年後除染廃棄物が中間貯蔵施設から最終処分場に移送済みになっていることを見守りたい。もし移送されなければ、国の怠慢であり、許さない。(40代)
- 古い家を壊した廃材(かや)とか、まだ、片付いていません。20km内のため、シートしてはありますが、限界がきてやぶけてないでしょうか？早目に片付けてほしいです。(50代)
- 除染後の減量化施設を作って、早く県内のフレコンを処理するべきであると考えます。そのためには、町(都路)の復興を進めることです。(60代)

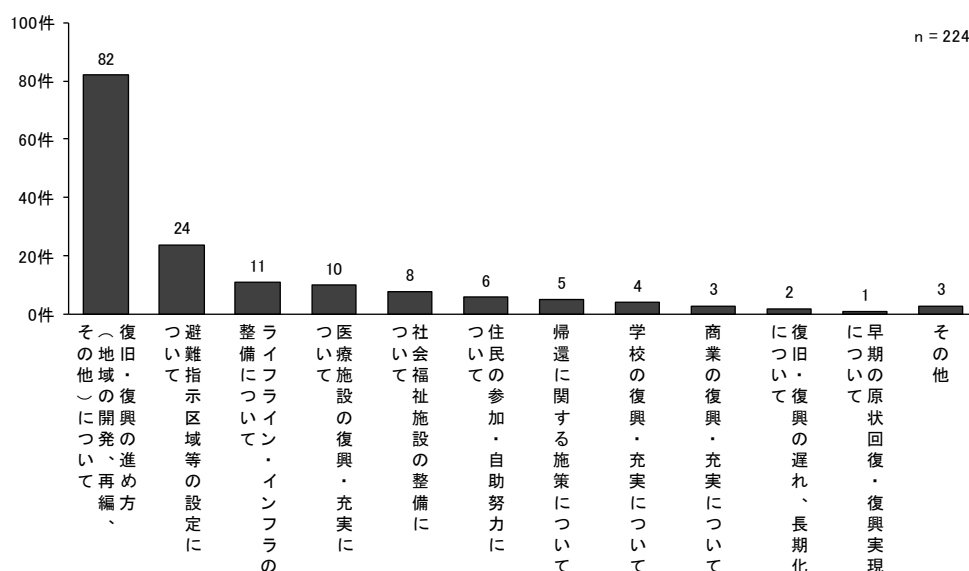
【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 放射線量の低下。(50代)
- 除染前土地も安定していたが、除染後、土地も山が削られ田の土手が削られ田の中まで水が流れていて、こまりました。(60代)

(5) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が最も高く82件、次いで「避難指示区域等の設定について」が24件、「ライフライン・インフラの整備について」が11件などとなっている。

<図表3-3-6 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 田村市も川内村のように企業を誘致して働く所をふやしてもらいたい。（40代）
- 若者が戻り易く、働く職場が有り、子供を産み育て易い環境を整える。このままでは姥捨て山になりそうです。（50代）
- 都路管内での雇用できる会社がない、入院できる病院がない、高齢者ばかり戻ってきてるので交通網が不十分、このままでは都路地区はゴーストタウンになる。伝統、行事などこれから守って行く若手の人が安心して戻れる環境作りが必要です（60代）

【避難指示区域等の設定について】

- 30k圏内と言うことだけで、いくら放射線量が高いと言っても、何もみとめてもらえない。小さな子供達は、本当にこれでいいのか、不安だ。都路にもどっている子供たちが安全で、生活できるようお願いしたい。（50代）
- 同じ空気を吸っていて放射能に色やにおいがあって違いがわかるのなら良いが 20 キロ地域は比較的線量が低く 30 キロ地域は線量が高い所が多いのに格差があるのはおかしい。格差に不満です。（60代）
- 20kと30kの差が生じ何もうまくいかない。（70代以上）

Ⅲ 調査結果

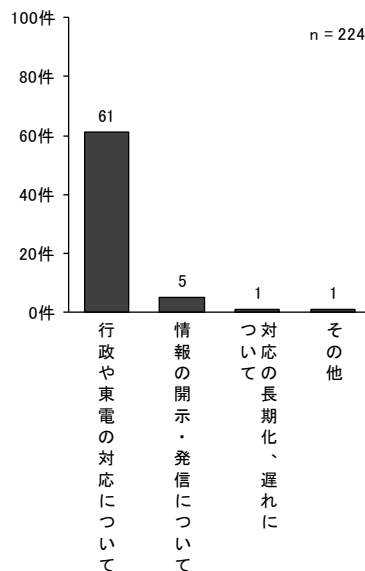
[ライフライン・インフラの整備について]

- 田んぼや畑が不耕作で荒れているのは残念です 住民が生活しやすいインフラ整備や農業の後押しをお願いします。(50代)
- ダンプ等、交通量が増えているので、歩道を設置してもらいたい。朝、夕、スピードを出しているのが危険です。(60代)
- 国道 288、399 がもっと有効に利用されること、双葉地方への通行がない現在人の移動が限られている人の動き、物の動きを活発させることが大事。都路が通過点であっても利用者が増えることが大事(70代以上)

(6) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が 61 件、「情報の開示・発信について」が 5 件となっている。

<図表3-3-7 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 要望はたくさんあるけど、書いた所で国や自治体が何かしてくれた事が無いから言っても仕方ないと思う。住民の思っている事、望んでいる事と、国がする事が全然合っていないと思う。(30代)
- 国、県、田村市は、地元で小売業を再開してほしいと言いながら、東京資本のコンビニを入店させたり、地元以外の移動販売(コンビニ)を介入させている。人口が減少している都路町において、我々商店主の考えとは、逆行する行為である。死活問題だと思う(50代)
- 特にこの度の原発事故での国の対応は、おおまかであった。もっと地元の声をきき、進めてほしかった。(70代以上)

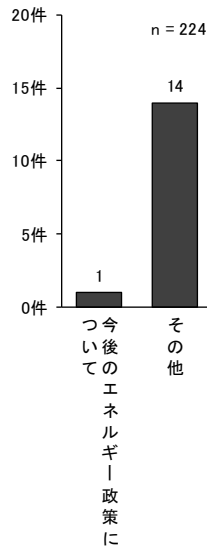
【情報の開示・発信について】

- 放射線による身体に対する影響に関して、正しい情報が欲しい。特に、甲状腺がんの発生状況、放射能との因果関係について、詳しく、正確な情報が欲しい。(30代)
- もっと慎重に避難解除をすべきだったのではないのでしょうか。なぜ、都路の20K圏内よりも岩井沢地区の方が放射線が高いにもかかわらず、先に解除されたのか…納得いかないまま、4年が経ちました。色々な情報…信用できないと思っています。(40代)
- 除染土壌や廃棄物の保管状態・管理に真剣に取り組んでほしい。原子力発電所の現況や情報を随時公開してほしい。(60代)

(7) その他

その他についての具体的な意見としては、以下の通りとなっている。

<図表3-3-8 その他についての意見>



[その他]

- 便利な世の中になったからこそその欲で「あーでもない、こーでもない」と言う人々の意見が多くあるのだと思います。なければいけないでどうにかするのです。そうしてきたのです。やればできるのにやろうとしない…ただのバカです。(20代)
- 県外の人達には「福島は要注意」のレッテルが張ってある。除染して線量が下り、人体に影響ないなら「放射能の安全」をもっと解かるように周知して欲しい。(70代)
- 岩小も古小へ統合すると岩井沢も子供の声が聞こえなくなり淋しいと思います。(70代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

田村市都路地域住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。
 現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、問1から順番にあてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
 「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。
 []の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容(地名など)をご記入ください。
ご回答は、記入する日時点の状況により、お答えください。

➤ 個人情報について

回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**10月16日(金)まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください(切手は不要です)。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-901-844

[設置期間：10月5日(月)～10月16日(金)10時～17時]
 土・日・祝を除く

* 調査の趣旨、記入方法についてはこちらにお電話下さい。

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
 避難地域復興局 生活拠点課
 Tel：024-521-8617

田村市

〒963-4393 福島県田村市船引町船引字畑添76番地2
 田村市役所 総務部 協働まちづくり課
 Tel：0247-81-2135

すべての方

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

問 1 あなたの現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。
 仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、
 主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | | |
|---------------------------|-----------------|--------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト | } ⇒問3へ |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 | |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) | } |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) | |
| 5. 団体職員 | 11. その他 (具体的に |) |
| 6. 公務員 | | |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | | |
|-------------------|---------------|---|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |) |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 | |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |) |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 | |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |) |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | | |

すべての方

あなたの状況について教えてください。

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。
 (○は1つ。「3」と答えた方は□に具体的な行政区名を記入してください。)

1. 都路町 第8行政区(小滝沢地区)
2. 都路町 第9行政区
3. 上記「1」と「2」以外の都路町 □ 行政区

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 5. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 民間賃貸住宅(一戸建) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 7. 親戚・知人宅 |
| 4. 公営住宅 | 8. その他 [具体的に] |

問 5 「震災発生当時に」、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。
 あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	オ)15歳以上19歳未満 (中学生・高校生を除く)	人
イ)小学生	人	カ)19歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	キ)65歳以上の方	人
エ)高校生	人		

問 6 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。
 あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	オ)15歳以上19歳未満 (中学生・高校生を除く)	人
イ)小学生	人	カ)19歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	キ)65歳以上の方	人
エ)高校生	人		

問 7 あなたが現在お住まいの場所はどちらですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1. 震災発生当時の住居 | } ⇒問 8(次のページ)へ |
| 2. 震災発生当時の住居以外 | |
| 3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している | |

問 7 で「1. 震災発生当時の住居」と回答した方

問 8 都路地域での今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | 6. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 |
| 2. 商業施設の充実 | 7. その他 (具体的に |
| 3. 医療、介護福祉施設の充実 | |
| 4. 公共交通機関の充実 | |
| 5. 雇用確保・就業支援 | 8. 特にない |

問 9 田村市(都路地域)の「自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの(風景、伝統、行事など)」をご自由にお書きください。今後の田村市(都路地域)のまちづくりのための参考とさせていただきます。

問 10 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

問 7 で「1. 震災発生当時の住居」と回答した方は、
以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月16日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

問 7 で「2. 震災発生当時の住居以外」または「3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方

問 11 震災発生当時の住居以外にお住まいの理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

1. 震災発生当時の住居周辺の放射線量の高さが心配だったから(心配だから)
2. 震災発生当時の住居周辺に住む人が少ないと思ったから(思うから)
3. 新たな場所で生活を開始したかったから(開始したいから)
4. 震災発生当時の住居が荒廃していたから(荒廃しているから)
5. 震災発生当時の住居が貸家だったから
6. その他(具体的に)

問 12 あなたが現在お住まいの、震災発生当時の住居以外のお住まいがある自治体を教えてください。(〇は1つ。25 もしくは 26 と答えた方は に具体的にご記入ください。)

- | | |
|----------|----------------|
| 1. いわき市 | 13. 伊達市 |
| 2. 相馬市 | 14. 本宮市 |
| 3. 南相馬市 | 15. 桑折町 |
| 4. 広野町 | 16. 川俣町 |
| 5. 檜葉町 | 17. 大玉村 |
| 6. 川内村 | 18. 西郷村 |
| 7. 新地町 | 19. 三春町 |
| 8. 福島市 | 20. 小野町 |
| 9. 郡山市 | 21. 田村市⇒問 13 へ |
| 10. 白河市 | 22. 会津若松市 |
| 11. 須賀川市 | 23. 喜多方市 |
| 12. 二本松市 | 24. 会津美里町 |

【福島県内のその他の市町村(1 から 24 以外)】

25. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【福島県外】

26. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村)

⇒問 12 で「21.田村市」を選んだ方は問 13 へ
⇒「21.田村市」以外を選んだ方は問 14(次のページ)へ

【問 12 で「21. 田村市」と回答した方にうかがいます。】

問 13 現在お住まいの、震災発生当時の住居以外のお住まいがあるところを、以下から教えてください。(〇は1つ)

1. 田村市滝根町
2. 田村市大越町
3. 田村市都路町
4. 田村市常葉町
5. 田村市船引町

問 7 で「2. 震災発生当時の住居以外」または「3. 震災発生当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方

問 14 現在お住まいの、震災発生当時の住居以外のお住まいは、どのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)
10. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償)
11. その他 (具体的に)

今後のご意向についてお聞かせください。

問 15 今後のお住まいについて、どのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 都路地域に住みたいと考えている
2. 田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている
3. 現時点ではまだ判断がつかない
4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている

} ⇒ **問 16 へ**
 ⇒ **問 21(8 ページ)へ**
 ⇒ **問 25(10 ページ)へ**

問 15 で「1. 都路地域に住みたいと考えている」または「2. 田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている」と回答した方

問 16 都路地域または田村市内(都路地域以外)に住む時期について、現在のお考えをお聞かせください。(○は1つ)

1. 既に都路地域(田村市内)に住んでいる
2. 1年以内
3. 3年以内
4. 5年以内
5. 5年超

問 17 都路地域または田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている方で、その場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合も含む)
2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を購入したい
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅、公務員住宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に)
10. 現時点では判断できない

問 15 で「1. 都路地域に住みたいと考えている」または「2. 田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている」と回答した方

問 18 田村市での今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | 6. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 |
| 2. 商業施設の充実 | 7. その他 |
| 3. 医療、介護福祉施設の充実 | { 具体的に |
| 4. 公共交通機関の充実 | } |
| 5. 雇用確保・就業支援 | 8. 特にない |

問 19 田村市(都路地域)の「自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの(風景、伝統、行事など)」をご自由にお書きください。今後の田村市(都路地域)のまちづくりのための参考とさせていただきます。

問 20 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

問 15 で「1. 都路地域に住みたいと考えている」または「2. 田村市内(都路地域以外)に住みたいと考えている」と回答した方は、

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、

10月16日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

問 15 で「3. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方

問 21 今後のお住まいについて判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

1. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
2. どの程度の住民が戻るかの状況
3. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
4. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
5. 放射線の人体への影響に関する情報
6. 働く場の確保の目途
7. 受領する賠償額の確定
8. 住宅確保への支援に関する情報
9. その他(具体的に)
10. 現時点で家族間の意見が分かれており、帰還意向について回答できない
11. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない

問 22 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
4. 役所からの継続的な情報提供
5. その他(具体的に)

問 15 で「3. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方

問 23 田村市(都路地域)の「自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの(風景、伝統、行事など)」をご自由にお書きください。今後の田村市(都路地域)のまちづくりのための参考とさせていただきます。

問 24 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

問 15 で「3. 現時点でまだ判断がつかない」と答えた方は、
以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月16日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

問 15 で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方

問 25 田村市以外に住みたい理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

<p>【帰還の前提・健康に関わるもの】</p> <p>1. 放射線が不安だから</p> <p>2. 原子力発電所の廃炉、管理などに不安があるから</p> <p>3. 飲用水など生活用水の安全性に不安があるから</p> <p>【田村市内の復旧状況に関わるもの】</p> <p>4. 田村市に戻っても仕事がなさそうだから</p> <p>5. 田村市での事業の再開が難しいから</p> <p>6. 営農などができそうにないから</p> <p>7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから</p> <p>8. 田村市外への移動交通が不便だから</p> <p>9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから</p> <p>10. 医療環境に不安があるから</p> <p>11. 介護・福祉サービスに不安があるから</p> <p>12. 教育環境に不安があるから</p> <p>13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから</p>	<p>【今後の生活に関わるもの】</p> <p>14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから</p> <p>15. 他の住民も戻りそうにないから</p> <p>16. 避難先で仕事を見つけているから</p> <p>17. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから</p> <p>18. 避難先の方が生活利便性が高いから</p> <p>19. その他 (具体的に)</p>
---	--

問 26 今後、居住を希望する(既に居住している場合を含む)自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ。24 もしくは 25 と答えた方は に具体的にご記入ください。)

<p>1. いわき市</p> <p>2. 相馬市</p> <p>3. 南相馬市</p> <p>4. 広野町</p> <p>5. 檜葉町</p> <p>6. 川内村</p> <p>7. 新地町</p> <p>8. 福島市</p> <p>9. 郡山市</p> <p>10. 白河市</p> <p>11. 須賀川市</p> <p>12. 二本松市</p>	<p>13. 伊達市</p> <p>14. 本宮市</p> <p>15. 桑折町</p> <p>16. 川俣町</p> <p>17. 大玉村</p> <p>18. 西郷村</p> <p>19. 三春町</p> <p>20. 小野町</p> <p>21. 会津若松市</p> <p>22. 喜多方市</p> <p>23. 会津美里町</p>	<p>【福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外)】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <p><input type="text"/> (市・町・村)</p> <hr/> <p>【福島県外】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <p><input type="text"/> (都・道・府・県)</p> <p><input type="text"/> (市・町・村)</p>
--	---	---

問 15で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方

問 27 今後のお住まいとして、想定される(既に居住している場合を含む)お住まいはどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に)
10. 現時点では判断できない

問 28 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
4. 役所からの継続的な情報提供
5. その他(具体的に)

問 29 田村市(都路地域)の「自慢できるところ、魅力、後世に残したいもの(風景、伝統、行事など)」をご自由にお書きください。今後の田村市(都路地域)のまちづくりのための参考とさせていただきます。

問 30 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

問 15 で「4. 田村市以外の場所に住みたいと考えている」と回答した方は、
以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月16日（金）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

**田村市都路地域 住民意向調査
報告書**

平成28年3月

復興庁 福島県 田村市

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

